

行政報告資料

戸別収集への移行及び家庭ごみ有料化の検討について

1. 戸別収集への移行について

平成16年10月から全地域実施を前提に、本年度モデル地域を定め試行実施する。

(試行開始時期)

平成16年2月から

(モデル地域)

平成 15 年 8 月 1 日現在

地域	人口	世帯数
御殿山 1, 2 丁目全域	4,309人	2,358世帯
西久保 1～3 丁目全域	11,278人	6,171世帯
桜 堤 1～3 丁目全域	5,431人	2,633世帯
計	21,018人	11,162世帯

(収集方法)

原則として、一戸建て住宅については、玄関前、門の前などに、集合住宅については、各住宅にステーションを設置し、ごみ出し、収集を行う。

収集品目は、可燃・不燃・資源・有害ごみの現在ステーションで収集している全てのごみ

(ステーションの整備)

平成15年10月下旬より、モデル地域全世帯を対象に、チラシ配布、戸別訪問し、現在のステーションの廃止、縮小、新設等の整備を行う。

平成16年1月中にモデル地域住民を対象に、コミセン等公共施設において住民説明会を行う。

2. 家庭ごみ有料化の検討について

平成16年10月実施を目途として、家庭ごみ有料化の検討を行う。

(主な取組み)

- ①「市長と語る会」をはじめ、「市民との懇談会」開催
- ②ごみ排出状況のモニター調査実施
- ③市民意識調査実施
- ④具体的手法、課金方法などの検討

「戸別収集」及び「家庭ごみの有料化」への取組みについての経過報告

平成15年7月「武蔵野市廃棄物に関する市民会鑑」における審議報告を受け、平成15年9月の本会議での行政報告に基づき、下記のとおり取組みを行ってまいりましたので、報告いたします。

1. 市報による周知

市報10月15日号1面～3面で、市の取組みについて周知

2. 「これしか出せないの！？ごみ袋」の全戸配布

平成15年10月16日～31日

3. 市長と語る会（ごみ問題）及びごみに関する市民懇談会の実施

市長と語る会 平成15年11月1日（164名参加）

ごみに関する市民懇談会 平成15年11月7日～12月18日（計13会場、403名参加）

*別添資料1 参照

4. 家庭ごみに関するモニター調査の実施

期 間：平成15年11月10日～12月5日（4週間）

対 象：公募市民、青少協、老壮連、成蹊大、亜細亜大学生など計131名

内 容：ごみの排出状況、袋の使われ方、費用負担感など

*別添資料2 参照

5. ごみに関する市民意識調査

(1) 1次調査（本調査作成のための事前グループインタビュー調査）

期 間：平成15年12月17日～19日

対 象：市内3地域で3グループ（1グループ6人～9人）

内 容：家庭ごみ有料化、戸別収集の実施など新たな施策について

(2) 本調査

期 間：平成16年1月16日～31日

対 象：市民3,000人（無作為抽出）

内 容：家庭ごみ有料化、戸別収集について、費用負担感についてなど

回 収 数：1,113（回収率37.1%）

*現在集計中

(3) 2次調査（対象者を限定したインタビュー調査）

期 間：平成16年2月21日～23日（予定）

対 象：単身者、多人数世帯など

内 容：家庭ごみ有料化、戸別収集の実施など新たな施策について

*実施予定

6. 家庭ごみ有料化減免措置検討委員会及び検討プロジェクトの設置

（構成各課）ごみ総合対策課、緑化環境センター、道路課、子ども家庭課、生活福祉課、
高齢者福祉課、障害者福祉課

7. 戸別収集の試行について

平成16年2月からモデル地域を定め試行を実施

*別添資料3 参照

ごみに関する市民懇談会実施状況一覧

実施日	会場	参加者	主な意見等
11月1日 (土)	武蔵野芸能劇場 (市長と語る会)	164名	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち葉の処理も有料になるのか ・集合住宅への対応の具体策について ・ニツ塚の今後とエコセメントについて ・戸別収集の問題点 ・学校教育等若年層への啓発の取り組み ・有料化の手法について ・ステーションでのトラブル ・ポイ捨て禁止条例の制定を ・ゴミ処理経費の公開と歳入の使用目的について
11月7日 (金)	クリーンセンター	16名	<ul style="list-style-type: none"> ・有料化実施前に買いためておいたごみ袋の取り扱い ・分別されていないごみは収集しないのか ・一定量まで無料にする方式は考えていないのか ・有料化・戸別収集実施でゴミ処理経費は減るのか ・落ち葉を掃いた物も有料か ・集合住宅のステーションの取り扱い ・有料化について資料提供が不十分 ・有料指定袋の販売店 ・不法投棄への対処 ・ACTION (パンフレット) は分かりづらい ・行政の進め方は乱暴である
11月10日 (月)	西部コミセン	26名	<ul style="list-style-type: none"> ・まず市役所が無駄なごみを減らすべき ・桜堤を戸別収集のモデル地区にする理由は何か ・有料化はごみ減量につながらない。 ・若い世代への啓発活動が重要 ・落ち葉を掃いたものも有料になるのか ・ACTION (パンフレット) の内容が不十分
11月15日 (土)	武蔵野公会堂	12名	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみの堆肥化はどのように行っているのか。 ・事業系ごみの減量は進んでいるか。 ・不法投棄への対応はどうするのか。 ・道路等を掃いて生じた落ち葉も有料か ・有料袋の値段
11月17日 (月)	吉祥寺東町 コミセン (九甫の家)	18名	<ul style="list-style-type: none"> ・落葉・おむつ・ボランティア活動等の減免について ・管理人のいない場合等の集合住宅の対応について ・市報が届かない人への周知はどうするのか ・リサイクル専用施設の拠点整備を ・袋ではなくシールによるごみ出しを希望する ・意識の低い人や教育現場への啓発活動について ・ポリバケツによるごみ出しの徹底を
11月18日 (火)	中央コミセン	15名	<ul style="list-style-type: none"> ・資料にある処理量等の数値が統一されていない ・戸別収集になるとカラスの被害が増えるのでは。カラスネットの配布を続けて欲しい ・生ごみの堆肥化をもっとふやしてはどうか ・現在不法投棄が多い。有料化に賛成

実施日	会場	参加者	主な意見等
11月25日 (火)	吉祥寺南町 コミセン	26名	<ul style="list-style-type: none"> ・エコセメントの安全性について正しい情報を望む ・ステーションがコミュニティーとしてうまくいっている。今のままではだめか ・ごみの不法投棄に対する対応は ・敷地が狭い家やビル密集地などのごみの出し方は
11月26日 (水)	関前コミセン	34名	<ul style="list-style-type: none"> ・プラ容器の分別方法は ・戸別・有料化でゴミ処理費用は減るのか ・現在でも収集時間が遅い。戸別収集開始後はどうなる ・イベントごみの回収を市でやってくれるのか ・通りの掃除をして発生したごみも有料か ・樹木のごみは無料にすることを提案する ・不法投棄への対応は
11月28日 (金)	桜堤コミセン	43名	<ul style="list-style-type: none"> ・有料化に伴う不法投棄について ・収集後の資源や灰の有効活用について ・戸別収集に伴うプライバシーの問題について ・地域ごみや落ち葉清掃の有料化について ・収集時間について ・新聞等資源物のごみ停からの持ち去りについて ・ペットボトルの出し方、プラの分別について
11月29日 (土)	スイングスカイ ルーム	29名	<ul style="list-style-type: none"> ・ルール違反者に対する罰則の条例化を考えているか ・有害ごみ袋は再利用できるのではないか ・武蔵野はワースト2とのことだが、ワーストでない市の取り組みを調査した上での戸別収集・有料化か ・戸別・有料化により嫌がらせや不法投棄等のトラブルが発生するのではないか ・レジ袋持参キャンペーンを実施してはどうか ・レジ袋持参者に行っているスタンプ製をもっと宣伝すべき
12月1日 (月)	境南コミセン	72名	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック容器の汚れはどの程度きれいにすればよいか ・戸別収集に当たり、市が市民にごみBOXを提供する考えは ・集団回収の日と市の資源物回収日が重なることがあるが一本化できないのか ・小型電気製品は1つなら無料で燃やせないごみとして出せるが、今後も変わらないか ・プラ容器に貼ってあるラベルは完全にはがさなければならぬのか

実施日	会場	参加者	主な意見等
12月9日 (火)	吉祥寺北 コミセン	35名	<ul style="list-style-type: none"> ・市はもっと分別についてPRすべき ・総ごみ蓋に占める家庭ごみと事業系ごみの割合は ・有料袋の形態や種類はどのようになるのか ・有料化にすることで、ごみ減量につながるのか疑問 ・生ごみの堆肥化をもっとすすめるべき。堆肥の受け入れ先をもっと増やすべき ・落ち葉が有料になっては困る ・不燃と可燃を一緒の日に収集して負担軽減を ・容り法による資源化は市の負担が大きい。市は反対の動きを起こすべき ・集団回収を行っている地域と一般の地域のごみ最の比較は。
12月11日 (木)	西久保 コミセン	47名	<ul style="list-style-type: none"> ・紙とプラスチックごみの減量をすすめるべき ・分別方法がわかりにくい ・古紙・ダンボールの出し方について ・ペット・プラの資源化にはお金がかかる。ペットボトルも有料にすべき ・市は各種調査の報告や今後の日程について詳細に説明すべき ・容り法には問題が多い。ペットボトルの価格設定について国等に働きかけを行うべき ・戸別有料化移行後のルール違反に対する対応は ・資源化よりむしろ燃やしたほうがコストはかからないのでは ・周辺環境への影響を考慮して燃やすのは少なくすべき
12月18日 (木) (臨時)	八幡町 コミセン	30名	<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭のごみ減量の取り組みについて ・戸別収集移行後のカラス対策について ・市の職員に収集後バケツを片付けてほしい ・分別の基準を自治体間で統一すべき ・戸別収集での収集時間について ・周辺で野焼きを行っているところがあるので市で指導をしてほしい

	実施回数	参加者数
市長と語る会	1回	164名
市民懇談会	13回	403名
計	14回	567名

家庭ごみに関するモニター調査中間報告

1. 調査対象 市内在住市民131名
2. 調査期間 平成15年11月10日～12月5日（4週間）
3. 調査内容 事前に配布したごみ袋(3種類)を使って、ごみ出しをしてもらい、各家庭から排出されるごみ量をそれぞれ計測し、家庭ごみ有料化の際の負担感やごみに対する意識の変化、袋のサイズ/形状等について調査を行った。
4. 中間報告
 - (1) 有料化 有料化実施について、アンケート回収時の聞き取り調査の結果、賛成は60%
条件付賛成が20%、反対は20%である。
条件付賛成の条件→「負担額が一定以下」、「ルール違反对策の徹底」など。
条件付も含めると、80%の方が家庭ごみの有料化に理解を示している。
 - (2) 負担感 負担感については、一世帯月500円程度が妥当であるという回答が多い。
各世帯のごみ量を基に1L = 2円（日野市と同様）の課金で推計すると、
2人世帯（武蔵野市の平均世帯）→ ほとんどが月に500円以内の負担
3人世帯 → 半数の世帯が500円を超える負担
4人世帯 → 7割の世帯が500円を超える負担
となっている。
また、世帯構成ごとに一人・1ヶ月あたりの負担額を検証すると、
1人世帯 → 253.9円/月/人（平均）
2人世帯（武蔵野市の平均世帯） → 133.0円/月/人（ 〃 ）
3人世帯 → 150.7円/月/人（ 〃 ）
4人世帯 → 173.3円/月/人（ 〃 ）
5人世帯以上 → 121.3円/月/人（ 〃 ）
という結果が得られ、一人あたりの負担額は1人世帯が最も高く、多人
数世帯の1.5倍から2倍になっている。
 - (3) ごみ出し行動
 - ①排出状況 現状のごみ出しで、レジ袋を使用している → 7割
〃 市販の袋を買っている → 3割
 - ②意識変化 モニター調査で指定袋（5L、10L、20L、40L）を使用していただ
いた結果、大ききの決まった指定袋を使用することで、
自分の出しているごみ量を意識するようになった → 約6割
分別を徹底するようになった → 約6割
 - ③指定袋の利用状況20Lが最も多く使われ、10Lと40Lがほぼ同数と続き、
コンビニ等のレジ袋でよく見られる5Lの袋が最も少なかった。
 - ④袋の形状レジ袋タイプが最も使いやすいとの評価である。

(戸別収集試行までの状況)

戸別収集試行にあたっては、市職員が対象世帯を1軒1軒訪問し、建物ごとに排出場所を決定した。今回の試行では、

1. 敷地内に排出場所を決めた。(路上のステーションは全て廃止)
2. 門の外側に場所がない場合は、門の内側に排出場所を決め、作業員が門を開けて収集することとした。
3. 収集は市職員及び委託業者の作業員が行うため、市の収集作業であることが明確になるよう専用のベストを着用して収集作業を行うこととした。



作業員の専用ベスト



※参考

(実施までの作業)

1. モデル地域全世帯を対象に、チラシ配布及び事前調査(集合住宅管理者調査)
平成15年10月20日～31日
2. 対象世帯への戸別訪問及び排出場所の決定作業
平成15年11月4日～12月20日
3. 収集作業員、収集業者の現場調査及び確認作業
平成15年12月18日～平成16年1月31日
4. 戸別収集モデル地区を対象にしたモデル実施前の意識調査
対象：3地域900人、回収数：310、回収率：34.4%
平成16年1月18日～平成16年1月30日
5. ステーションの廃止撤去作業
平成16年1月31日
6. モデル地域での戸別収集試行開始
平成16年2月2日

(モデル地域)

平成16年2月1日現在

地域	人口	世帯数
御殿山1、2丁目全域	4,162人	2,269世帯
西久保1～3丁目全域	11,058人	6,005世帯
桜堤1～3丁目全域	5,398人	2,598世帯
計	20,618人	10,872世帯

(試行前と試行後の状況)

城山通り西久保3 - 7 - 6 付近のごみ停留所

試行前



施行後

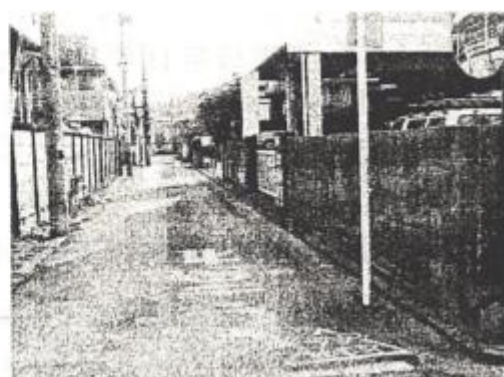


御殿山2 - 18 付近のごみ停留所

試行前



施行後



(試行後の状況)

1. 各建物の敷地内にごみ排出場所を決めたため、路上に置かれるごみがなくなった。
2. ごみ排出に対する意識に影響を与えている。(特に戸建住宅)
3. 試行直後2週間早朝調査したが、カラス被害、古紙類の持ち去りが減少している。
(調査指導係報告)
4. 電話での問い合わせ(取り残し、排出場所の確認、分別方法など)は、実施当初に数十件寄せられていたが、個々に対応しているため、件数は減少している。
5. 戸別収集に対する感謝の声も寄せられている。
 - ・町内の道路からネットがなくなりきれいになった。
 - ・戸別に収集するのは、手間がかかり大変だろうと思う。

「戸別収集」及び「家庭ごみの有料化」への取組み及び経過報告

2月20日の厚生委員会で取組み状況を報告いたしましたが、その後の経過を下記のとおり報告いたします。

1. 戸別収集の実施について

(第1次) 実施時期：平成16年7月から

対象地区：吉祥寺南町、吉祥寺本町、吉祥寺北町、八幡町、境、境南町

(第2次) 実施時期：平成16年10月から

対象地区：吉祥寺東町、中町、緑町、関前

*別添資料 1 参照

2. 家庭ごみに関するモニター調査結果のまとめについて

期 間：平成15年11月10日～12月5日（4週間）

対 象：公募市民、青少協、老壮連、成蹊大、亜細亜大学生など計131名

内 容：ごみの排出状況、袋の使われ方、費用負担感など

*別添資料 2 参照

3. ごみに関する市民意識調査の中間報告について

(1) 1次調査（本調査作成のための事前グループインタビュー調査）

期 間：平成15年12月17日～19日

対 象：市内3地域で3グループ（1グループ 6人～9人）

(2) 本調査

期 間：平成16年1月16日～31日

対 象：市民3,000人（無作為抽出）

回 収 数：1,113（回収率37.1%）

*別添資料 3 参照

(3) 2次調査（対象者を限定したインタビュー調査）

期 間：平成16年2月21日～23日（予定）

対 象：単身者、多人数世帯など

*現在集計中

4. 多摩地域での家庭ごみ有料化の状況について

*別添資料 4 参照

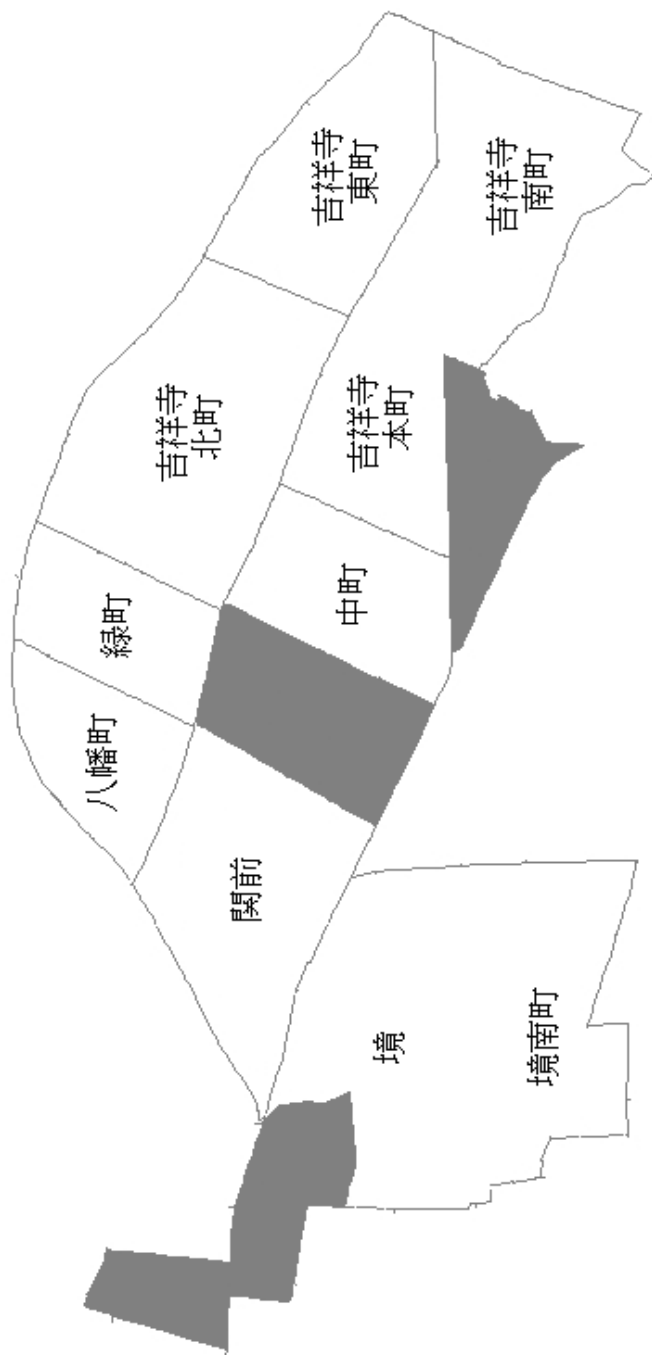
[戸別収集実施時期と対象地域]

<平成16年7月実施> *平成16年2月1日現在

対象地区	人口	世帯数
吉祥寺南町	13,155	6,939
吉祥寺本町	11,251	6,396
吉祥寺北町	15,701	7,115
八幡町	4,279	1,850
境	13,104	6,535
境南町	14,193	7,348
計	71,683	36,183

<平成16年10月実施> *平成16年2月1日現在

対象地区	人口	世帯数
吉祥寺東町	11,761	6,032
中町	10,725	5,784
緑町	7,555	3,494
関前	8,810	4,220
計	38,851	19,530



家庭ごみモニター調査まとめ

1. 家庭ごみモニター調査回答世帯概要

- モニター参加世帯数 : 131世帯
- モニター実施期間 : 平成15年11月10日～12月5日
- 調査内容 : 袋のモニター利用実績調査 (4サイズ × 3種類)
アンケート調査

表 1.1 モニター調査世帯の世帯人数と世帯主年齢層の分布

世帯主年齢層	世帯人数							総計
	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	
19～24才	15							15
25～60才	16	7	14	28	11	1	1	78
61～69才	1	8	4	3	3			19
70才以上	3	15	1					19
総計	35	30	19	31	14	1	1	131

表 1.2 モニター調査世帯の世帯人数と住居地域の分布

地区(町)	世帯人数							総計
	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	
関前	3	1	2	4	1			11
吉祥寺東町	8	3	2	3				16
吉祥寺南町		3	1	2	2			8
吉祥寺北町	2	5	4	6			1	18
吉祥寺本町		3	2		1	1		7
境	3	6	1	1	3			14
境南町	5			3	2			10
御殿山		2	1	1				4
桜堤		2	1	3	1			7
西久保	3	2	1	2	2			10
中町	7	1		4	1			12
八幡町	1	1		1				3
緑町	3	1	4	1	1			10
総計	35	30	19	31	14	1	1	131

表 1.3 モニター調査世帯の世帯人数と家族構成の分布

世帯区分	世帯人数							総計
	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	
11単身学生	17							17
12単身高齢	3							3
13単身一般	15							15
21二人高齢		6						6
22二人一般		24						24
31複数子育			9	20	11		1	41
32複数子供高齢			1	1		1		3
33複数高齢				3	1			4
34複数一般			9	7	2			18
総計	35	30	19	31	14	1	1	131

2. 袋モニター利用実績

1) 全体的傾向

- 各サイズ満遍なく利用されている。
- 最も多いのが20Lで、続いて10L と 40Lとなり、5Lの利用が最も少なかった。
- 袋のタイプでは、レジ袋、ロール巻、平袋の順に利用量が多く、これは第4週目の選択傾向と一致する。
- 袋のタイプ別の利用量については、使い勝手の面でアンケート結果での裏付けられている。

表 2.1 利用実績（単純集計）
ごみ袋大きさ別使用枚数

(単位：枚)

袋の大きさ	枚数
40L	355
うち、2枚目以降で使用	22
20L	474
うち、2枚目以降で使用	53
10L	360
うち、2枚目以降で使用	25
5L	255
うち、2枚目以降で使用	9
大きさの回答なし	22
合計	1466
うち、2枚目以降で使用	109

ごみ袋のタイプ別使用枚数

(単位：枚)

袋の種類	枚数
レジ袋	546
平袋	407
レジ袋（ロール巻）	476
種類の回答なし	37
合計	1466

第4週目で選択されたタイプ

(単位：枚)

袋の種類	枚数
レジ袋	87
平袋	123
レジ袋（ロール巻）	96
種類の回答なし	59
合計	365

2) ごみ種別の特徴

- 可燃・不燃とも各サイズ満遍なく利用されている。
- 傾向としては、可燃に40Lが多く、不燃で5Lが多い。
- ごみ袋の詰め具合は、可燃不燃とも同様で、およその割合は目一杯が30%、一杯が40%、2/3が20%、半分以下は10%となっている。

表 2.2 ごみ種別に見た袋の利用サイズ

全体				(単位：枚)
	可燃ごみ	不燃ごみ	ごみ種の回答なし	計
40L	280	95	0	355
20L	316	156	2	474
10L	236	123	1	360
5L	154	100	1	255
大きさの回答なし	14	6	2	22
計	980	480	6	1466

1枚目として使用				(単位：枚)
	可燃ごみ	不燃ごみ	ごみ種の回答なし	計
40L	243	90	0	333
20L	278	141	2	421
10L	220	114	1	335
5L	148	97	1	246
大きさの回答なし	14	6	0	20
計	903	448	4	1355

2枚目以降として使用				(単位：枚)
	可燃ごみ	不燃ごみ	ごみ種の回答なし	計
40L	17	5	0	22
20L	38	15	0	53
10L	16	9	0	25
5L	6	3	0	9
大きさの回答なし	0	0	0	0
計	77	32	0	109

表 2.3 ごみ種別に見た詰め具合

全体				(単位：枚)
	可燃ごみ	不燃ごみ	ごみ種の回答なし	計
3分の1程度	18	26	0	44
2分の1程度	43	31	1	75
3分の2程度	196	77	0	273
一杯	405	199	2	606
目一杯	301	143	0	444
詰め具合の回答なし	17	4	3	24
計	980	480	6	1466

1枚目として使用				(単位：枚)
	可燃ごみ	不燃ごみ	ごみ種の回答なし	計
3分の1程度	18	26	0	44
2分の1程度	39	30	1	70
3分の2程度	191	74	0	265
一杯	376	189	2	567
目一杯	263	125	0	388
詰め具合の回答なし	16	4	1	21
計	903	448	4	1355

2枚目以降として使用				(単位：枚)
	可燃ごみ	不燃ごみ	ごみ種の回答なし	計
3分の1程度	0	0	0	0
2分の1程度	4	1	0	5
3分の2程度	5	3	0	8
一杯	29	10	0	39
目一杯	38	18	0	56
詰め具合の回答なし	1	0	0	1
計	77	32	0	109

3) 袋の大きさ別に見た特徴

- 5Lは、半分以下の詰め具合で利用されているケースが多い。
- 目一杯に詰められている割合は、40Lの方が20Lよりも高い。

表 2.4 サイズ別に見た詰め具合

全体 (単位:枚)

	3分の1程度	2分の1程度	3分の2程度	一杯	目一杯	詰め具合の回答なし	計
40L	0	8	60	146	137	4	355
20L	6	12	90	235	124	7	474
10L	2	12	77	146	118	5	360
5L	36	43	44	69	62	1	255
大きさの回答なし	0	0	2	10	3	7	22
計	44	75	273	606	444	24	1466

1枚目として使用 (単位:枚)

	3分の1程度	2分の1程度	3分の2程度	一杯	目一杯	詰め具合の回答なし	計
40L	0	7	59	140	124	3	333
20L	6	9	86	215	98	7	421
10L	2	11	74	138	105	5	335
5L	36	43	44	84	58	1	246
大きさの回答なし	0	0	2	10	3	5	20
計	44	70	285	567	388	21	1355

2枚目以降として使用 (単位:枚)

	3分の1程度	2分の1程度	3分の2程度	一杯	目一杯	詰め具合の回答なし	計
40L	0	1	1	6	13	1	22
20L	0	3	4	20	26	0	53
10L	0	1	3	8	13	0	25
5L	0	0	0	5	4	0	9
大きさの回答なし	0	0	0	0	0	0	0
計	0	5	8	39	56	1	109

4) 世帯人数別に見た特徴

- 単身世帯では20Lまでのサイズを均等に利用しているが、40Lの利用は少ない。
- 2人世帯では5L、10Lの利用が多く、20L以上は少なくなる。特に不燃ごみで小さな袋が利用される傾向が強い。
- 3人以上の世帯では可燃ごみで20L、40Lが主として利用されている。不燃ごみでは10L、20Lを中心に利用されている。

表2.5 世帯人数別に見たごみ種別・サイズ別の利用実績

可燃ごみ

世帯数	対象世帯数	平均ごみ量 (L/世帯)	40L	20L	10L	5L
1人	35	82.5	23	49	54	65
2人	30	108.8	36	34	69	65
3人	19	162.4	39	53	35	11
4人	31	236.8	100	92	37	11
5人	14	211.8	35	45	28	1
6人	1	280.0	4	4		
7人	1	300.0	6	1		
総計	131	154.2	243	278	223	153

不燃ごみ

世帯数	対象世帯数	平均ごみ量 (L/世帯)	40L	20L	10L	5L
1人	35	52.3	12	33	29	26
2人	30	35.9	3	21	25	34
3人	19	57.4	11	18	21	16
4人	31	110.5	44	49	13	15
5人	14	92.1	16	16	23	1
6人	1	120.0	2	2		
7人	1	100.0	1	3		
総計	131	69.1	89	142	111	92

- 世帯人数別に袋の容量から試算した各モニター別のごみ量については、ある程度世帯人数が多いほどごみ最が多くなる傾向を示すものの、家庭毎のばらつきが大きかった。
- 全体的に、単身者のごみ量が多く、2人世帯と同程度もしくは2人世帯以上のごみ量となるケースが多くある。この傾向は不燃ごみで顕著である。
- 可燃ごみと不燃ごみのごみ量の関係も、モニター家庭ごとの バラツキを示しているが、全体的には可燃ごみの多い家庭が不燃ごみも多い傾向がうかがえる。ただし、不燃ごみは一定量で頭打ちとなる傾向が見られる。

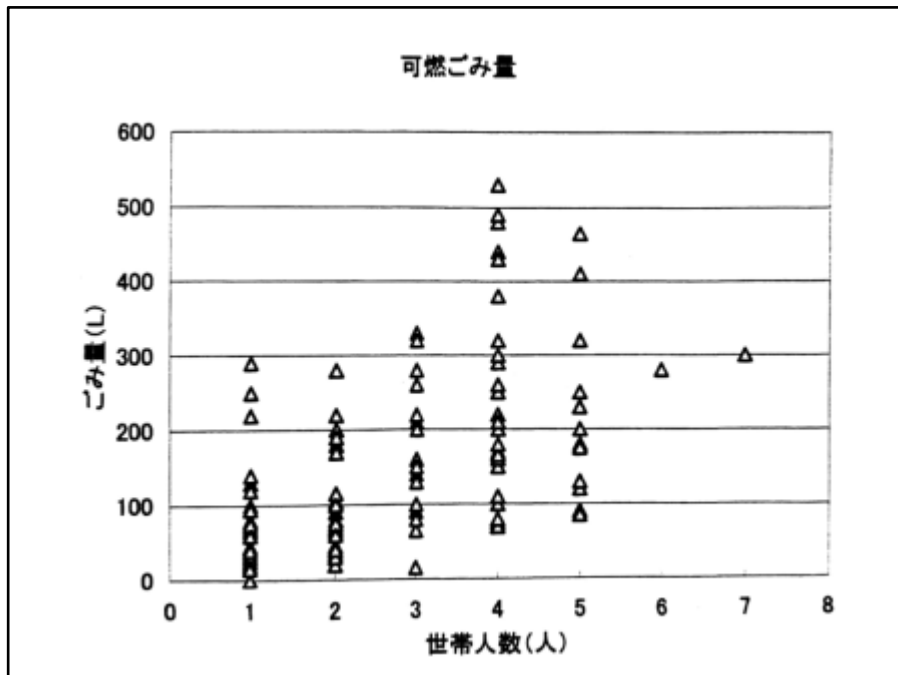


図2.1 世帯人数の可燃ごみ量

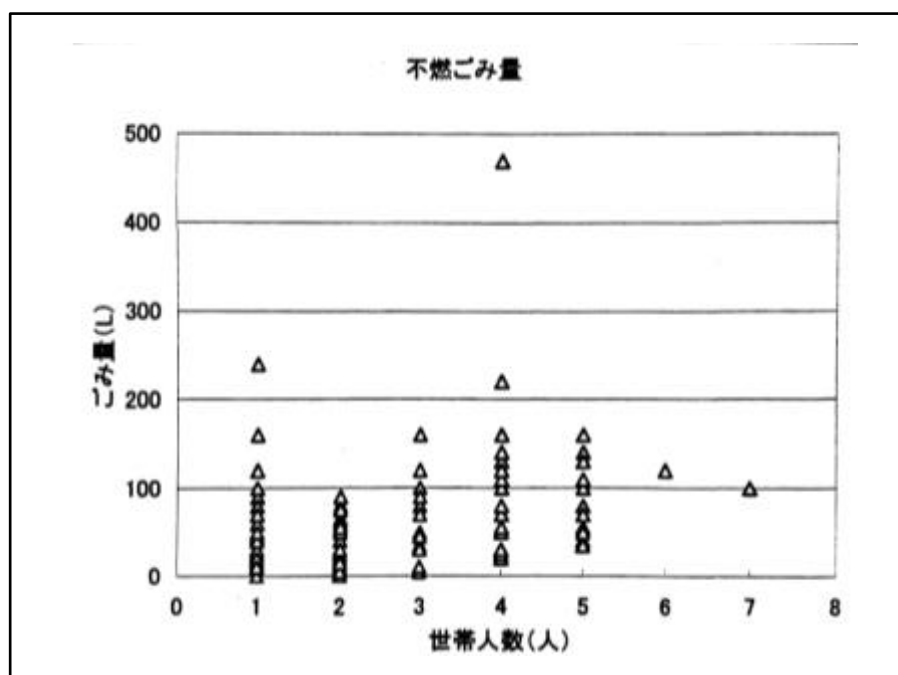


図2.2 世帯人数別不燃ごみ量

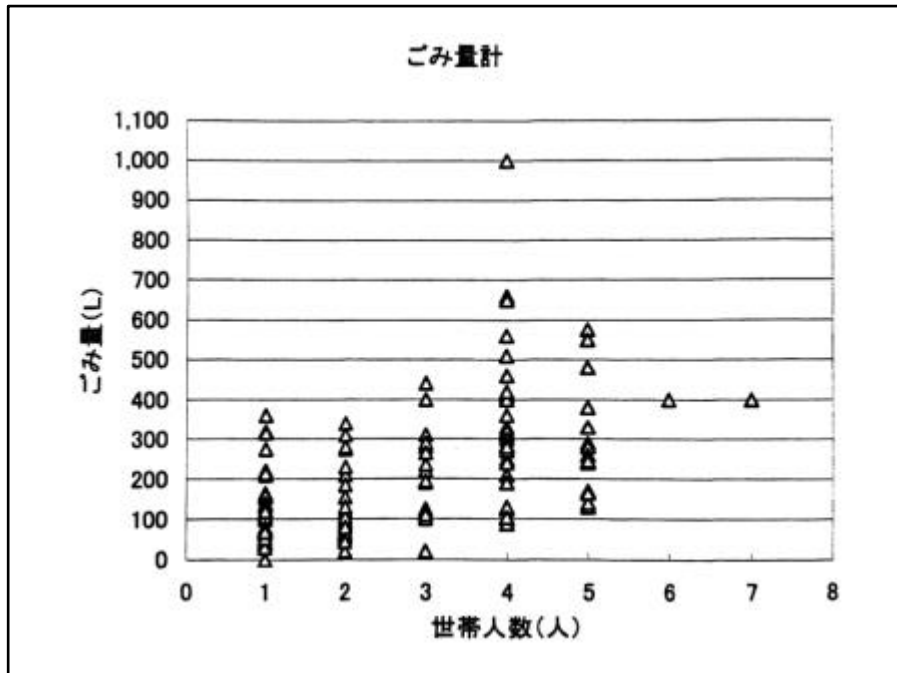


図2.3 世帯人数別のごみ量合計（可燃+不燃）

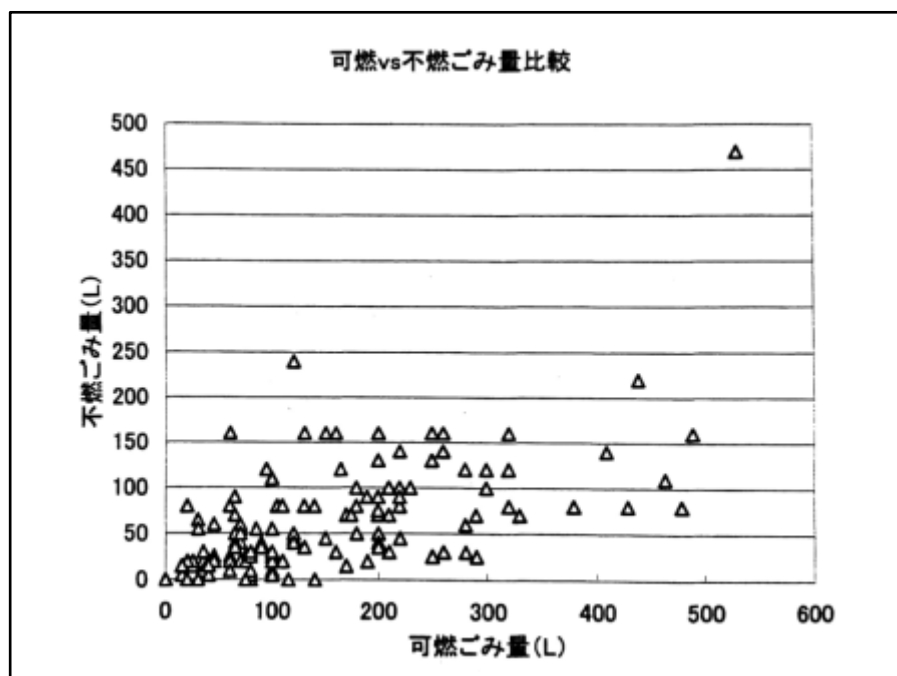


図2.4 各モニターの可燃ごみと不燃ごみ量の関係

表2.6 各属性毎の一人あたりの1ヶ月ごみ量平均値

世帯主年齢層		世帯人数						
		1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人
19～24才	ごみ量 (合計)	115.3						
25～60才	ごみ量 (合計)	135.0	54.3	77.6	90.0	68.7	66.7	57.1
61～69才	ごみ量 (合計)	45.0	69.1	52.5	57.5	31.7		
70才以上	ごみ量 (合計)	146.7	82.3	103.3				
全年齢層合計	ごみ量 (合計)	125.0	72.3	73.7	86.8	60.8	66.7	57.1
世帯区分		世帯人数						
		1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人
11单身学生	ごみ量 (合計)	138.5						
12単身高齢	ごみ量 (合計)	146.7						
13单身一般	ごみ量 (合計)	105.3						
21二人高齢	ごみ量 (合計)		87.1					
22二人一般	ごみ量 (合計)		68.5					
31複数子育	ごみ量 (合計)			87.8	89.1	68.7		57.1
32複数子供高齢	ごみ量 (合計)			103.3	250.0		66.7	
33複数高齢	ごみ量 (合計)				95.0	34.0		
34複数一般	ごみ量 (合計)			56.3	53.6	30.5		
世帯区分計	ごみ量 (合計)	125.0	72.3	73.7	86.8	60.8	66.7	57.1

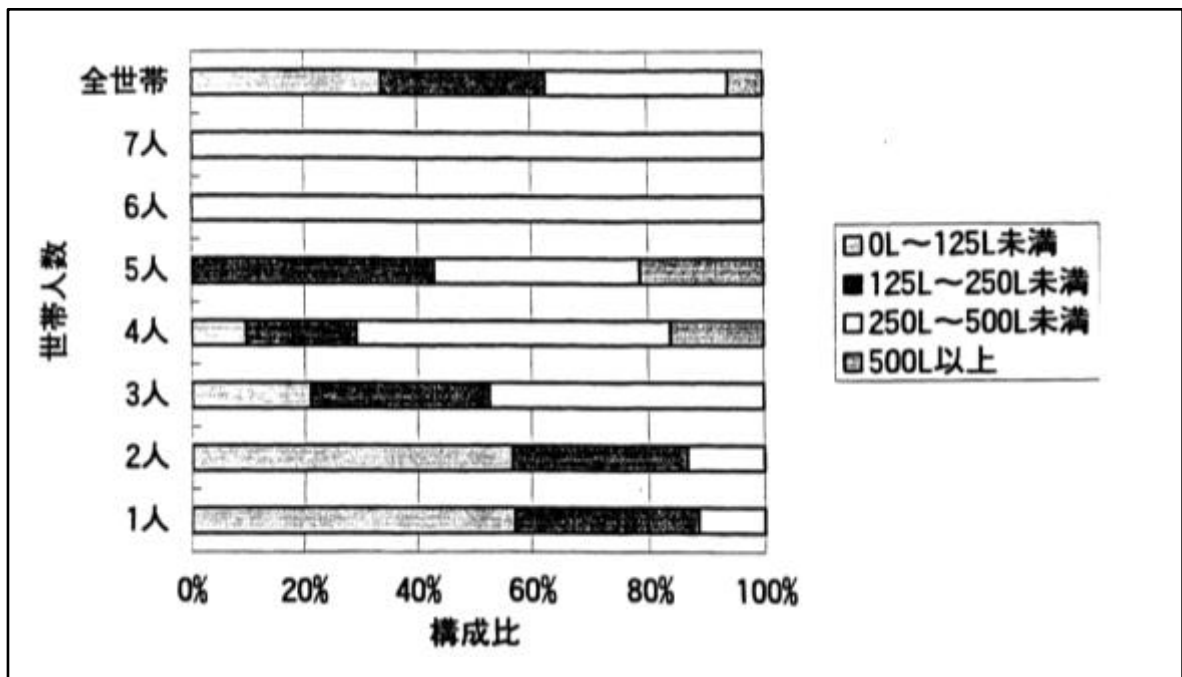


図2.5 世帯人数別の1ヶ月のごみ量分布

3. アンケート結果

1) モニター調査を通じて

- モニター期間中のごみ量は可燃不燃合わせて100L～200L世帯が最も多く、300L以下が70%を占めている。
- ごみ量の実感としては、予想通りの回答が最も多く、次いで予想以上、予想以下となっている。基本的には想定しているごみ量と大きな相違は無かったと考えられる。

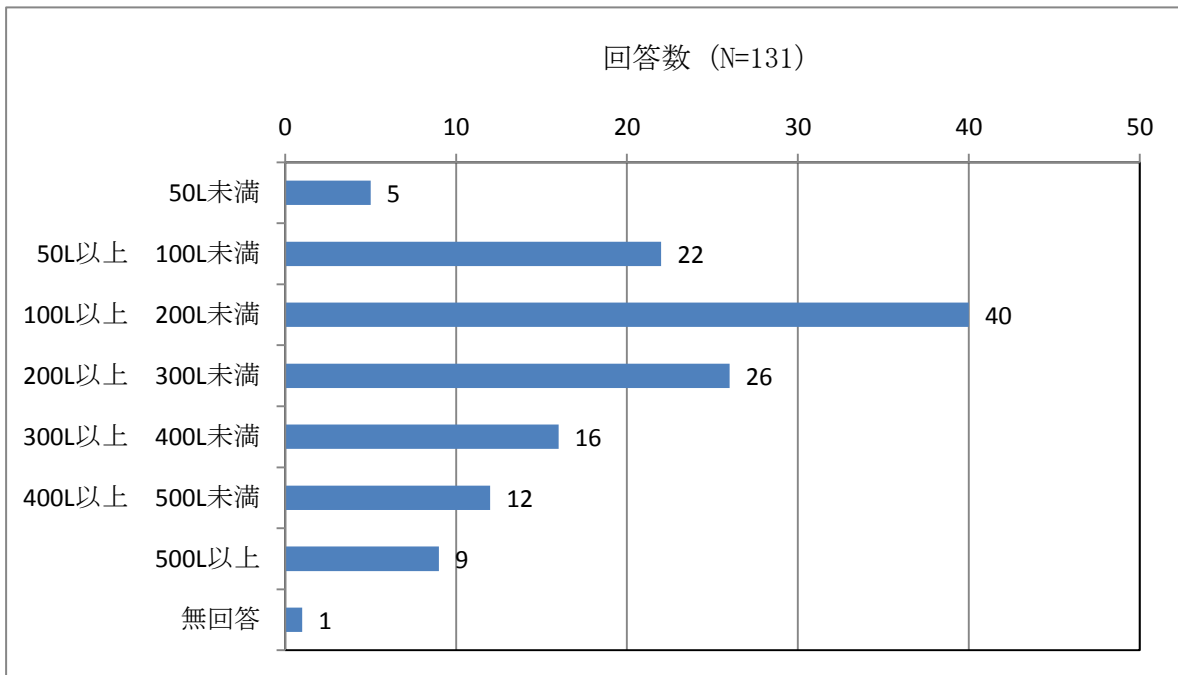


図3.1 モニター期間中のごみ量

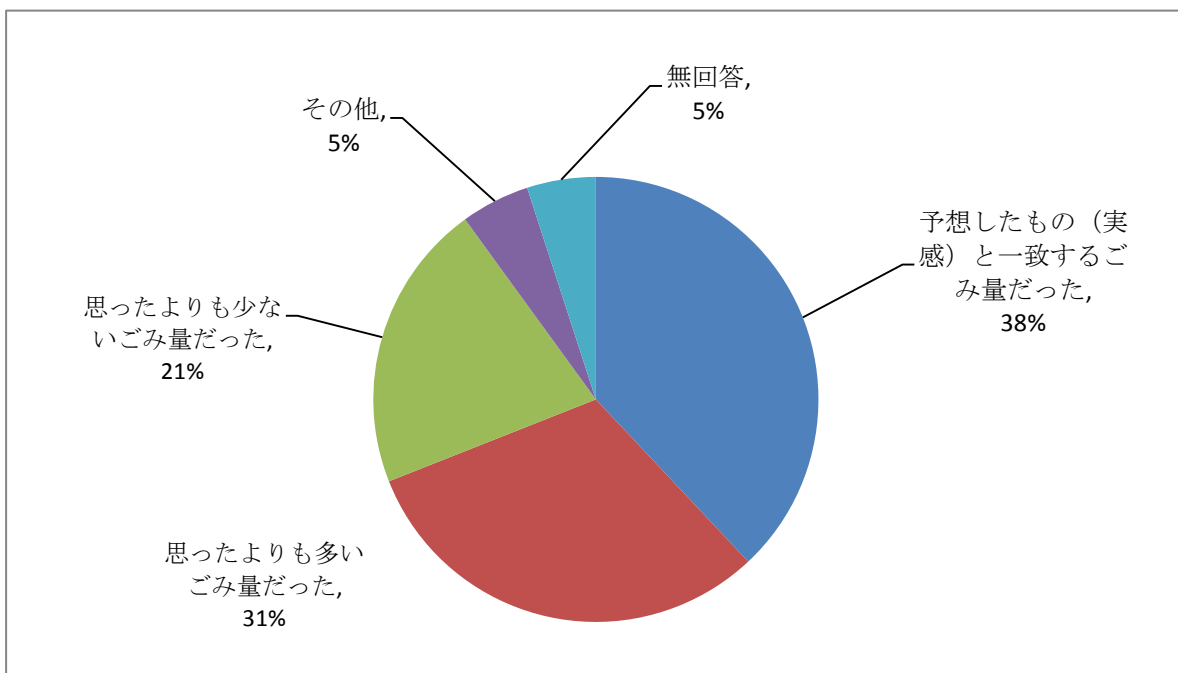


図3.2 ごみ量の実感

- モニター調査を行った結果としてのごみに対する意識については、ごみ量の意識についての回答が最も多く、次いでごみ詰めへの工夫という回答が多かった。
- 一方、ごみ問題に対する行動については分別の徹底という回答が多く、次いで減量への努力が多い回答である。

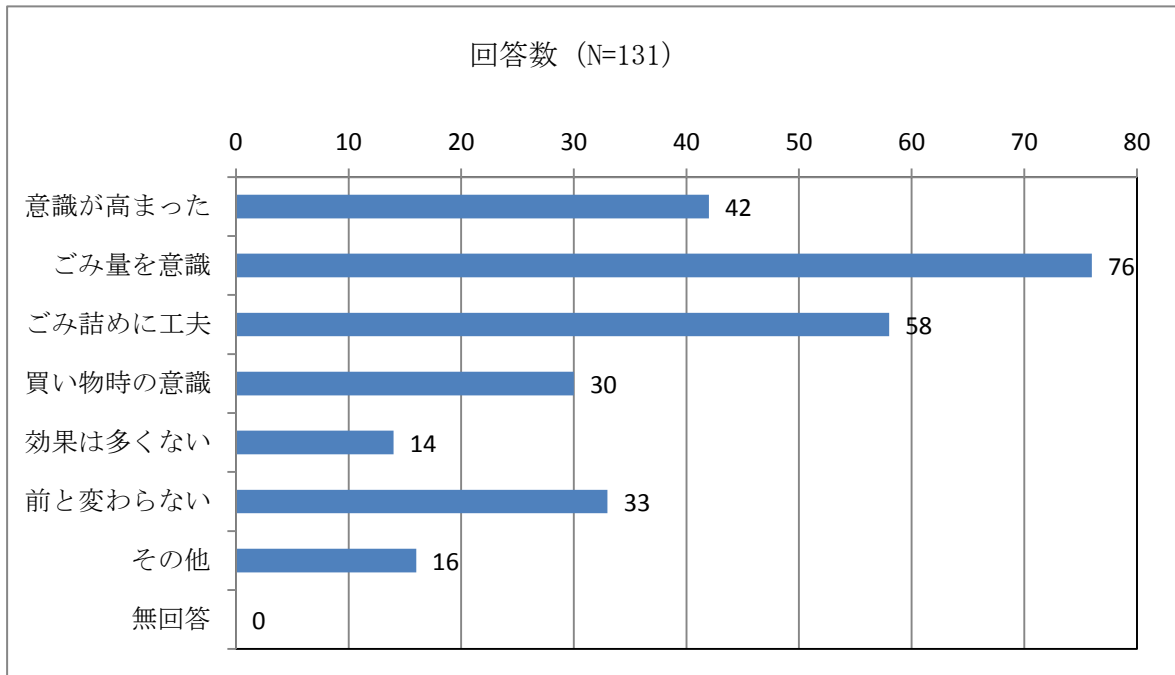


図3.3 モニターを通じたごみに関する意識

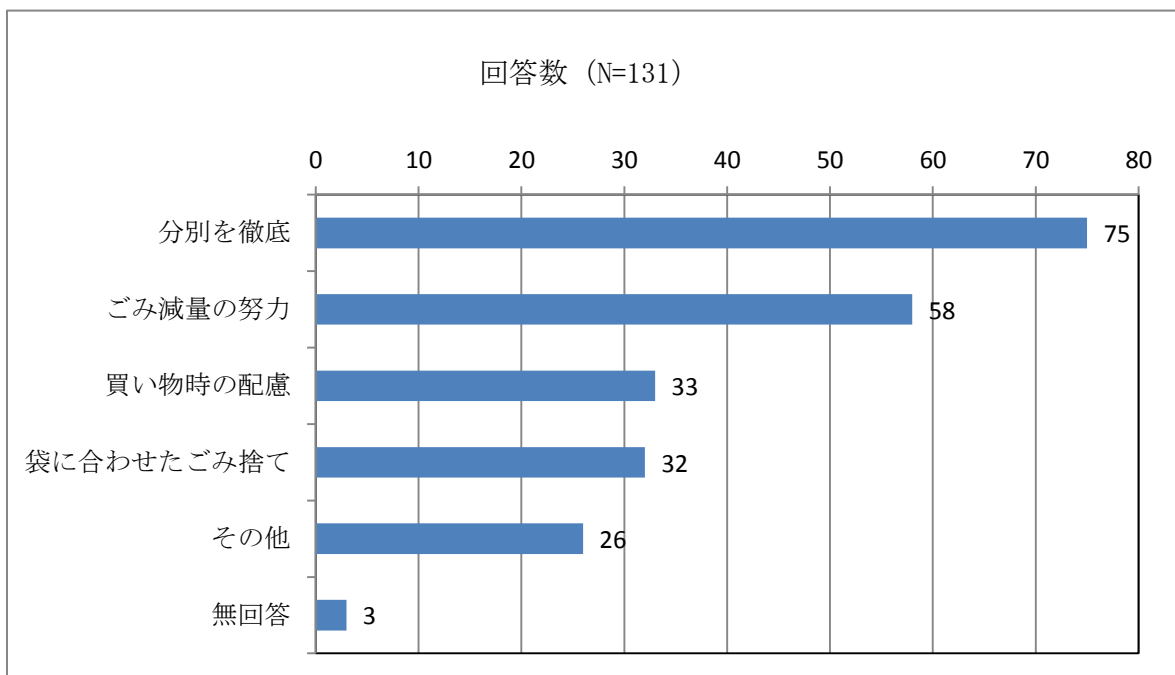


図3.4 モニターを通じたごみに関する行動

2) 袋の使用感

- モニターで用いたごみ袋の使用感に関しては、今後の利用について63%の世帯が問題ないと回答している。一方、袋の改善要望は17%の世帯からあり、指定袋への抵抗感は10%の世帯が示している。
- モニター袋の使い勝手については、何らかの使い勝手の悪さを指摘する声がある。
- 使い勝手の悪さについては、口の縛りにくさについて「平袋」タイプが突出して挙げられている。一枚ごとの取り出しやサイズのわかりにくさについて「ロール巻」タイプが比較的多く挙げられている。

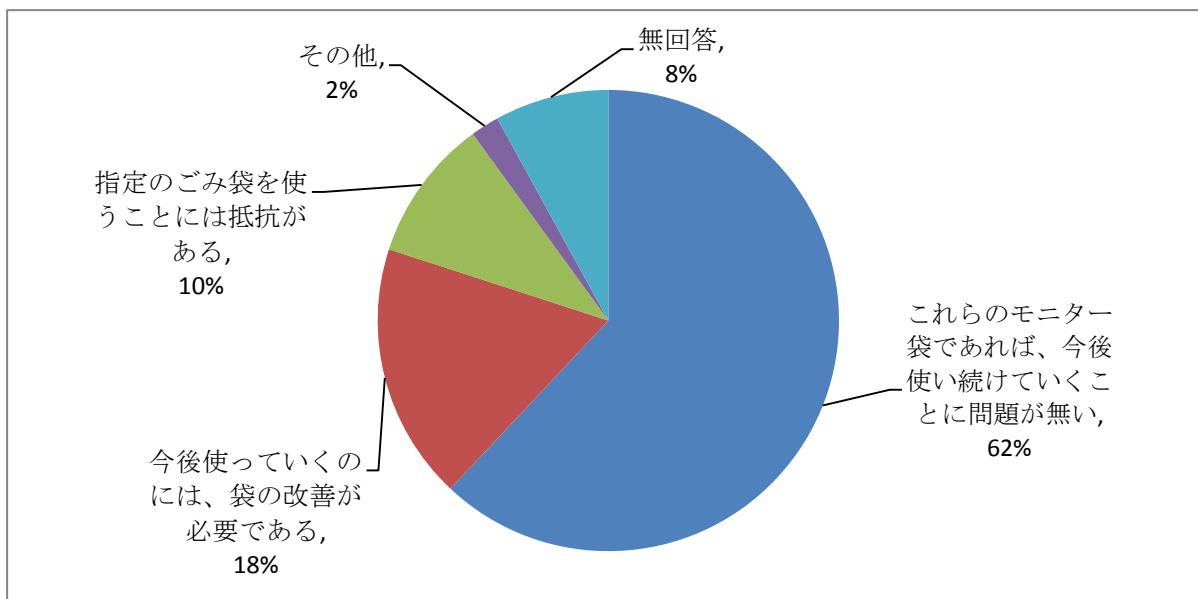


図3.5 モニター袋を指定袋として使うこと

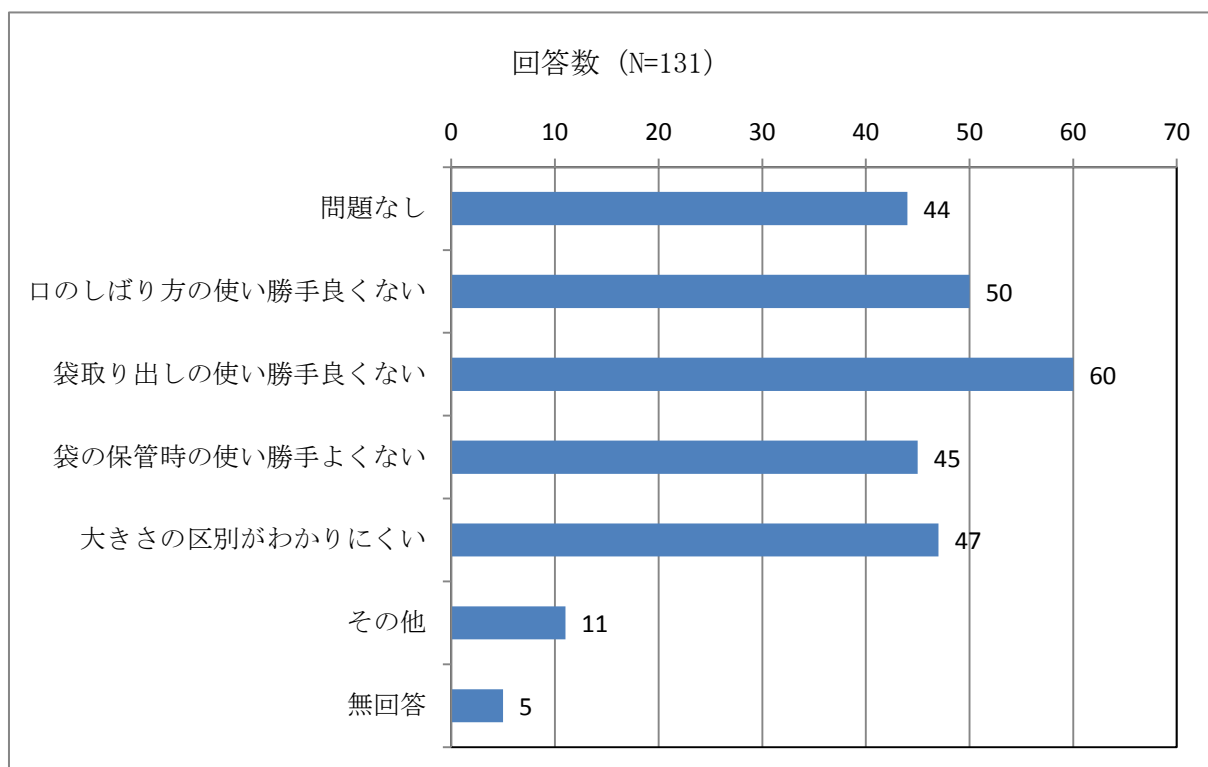


図3.6 モニター袋の使い勝手

表 3.1 モニター袋のタイプ別に見た使い勝手

①しぼり方の使い勝手がよくない
(MA、N=100)

設問肢	回収数	回答率
袋の口がしぼりにくい形状である	94	94.0%
レジ袋	1	1.0%
平袋	91	91.0%
レジ袋（ロール）	3	3.0%
袋の口をしぼった時の密閉度が悪い	67	67.0%
レジ袋	6	6.0%
平袋	58	58.0%
レジ袋（ロール）	8	8.0%
一杯に入れると袋の口がしぼりにく	97	97.0%
レジ袋	2	2.0%
平袋	95	95.0%
レジ袋（ロール）	3	3.0%
その他	6	6.0%

②袋の取り出し方の使い勝手がよくない
(MA、N=92)

設問肢	回収数	回答率
一枚ずつ取り出しにくい	86	93.5%
レジ袋	31	33.7%
平袋	37	40.2%
レジ袋（ロール）	57	52.0%
取り出したときに破けやすい	13	14.1%
レジ袋	2	2.2%
平袋	3	3.3%
レジ袋（ロール）	8	8.7%
取り出す前に大きさがわかりにくい	69	75.0%
レジ袋	28	30.4%
平袋	36	39.1%
レジ袋（ロール）	44	47.8%
その他	12	13.0%

- 実際に指定袋として使い場合には、可燃不燃とも「レジ袋」タイプをあげる世帯が多く、約65%となっている。続いて「ロール巻」タイプが20%程度で、「平袋」タイプを挙げる家庭は少なかった。
- 袋のサイズとしては、可燃不燃とも20Lの人气が高く、続いて10Lとなっている。可燃の場合には3番目に40L、不燃の場合は3番目に5Lと傾向が異なっている。
- 他のサイズとしては、30Lの回答が多かった。
- なお、最大サイズとしては40Lが多く、最小サイズとしては5Lと10Lが半々程度となっている。

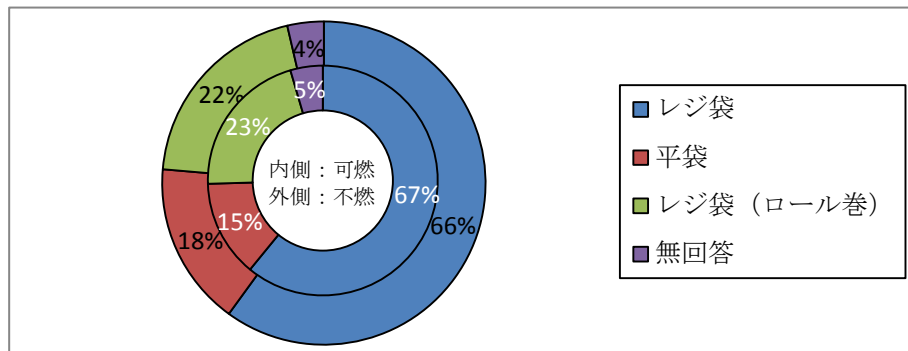


表3.2 指定袋して適切な袋のサイズ

可燃ごみ用
(SA、N=131)

N= 131

設問肢	回収数	回答率
40L	19	14.5%
20L	44	33.6%
10L	36	27.5%
5L	12	9.2%
他に適したサイズがある	19	14.5%
10L	1	%
15L	5	%
20L	1	%
30L	8	%
35L	1	%
45L	3	%
無回答	1	0.8%

不燃ごみ用
(SA、N=131)

N= 131

設問肢	回収数	回答率
40L	15	11.5%
20L	45	34.4%
10L	32	24.4%
5L	24	18.3%
他に適したサイズがある	14	10.7%
3L	1	%
10L	2	%
15L	4	%
30L	6	%
45L	1	%
無回答	1	0.8%

3) 有料化について

- 1L=2円を想定した場合のモニター家庭の有料化負担額は100円～300円の範囲が多かった。
- この負担を前提とした場合の有料化の可否については、半数が「負担感はあるが我慢できる」と回答しており、次いで「さほど負担が重くない」が27%となっている。一方、「負担に耐えられない」については7%と少ない。
- 「負担に耐えられない」と回答した世帯は世帯人数の多い家庭が多い傾向を示しており、絶対額が多い家庭の負担感が高いことがうかがえる。

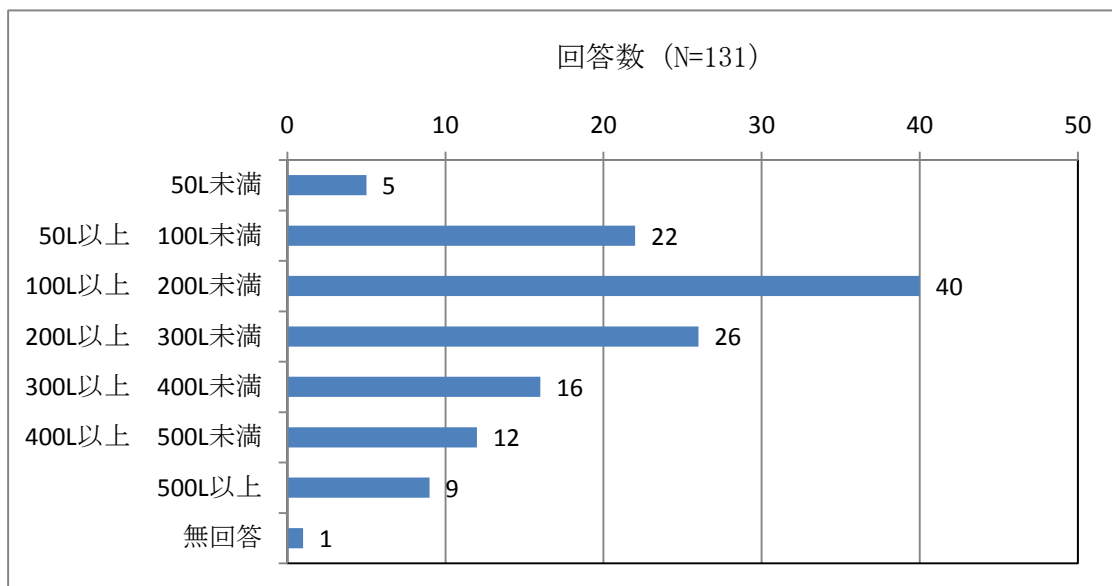
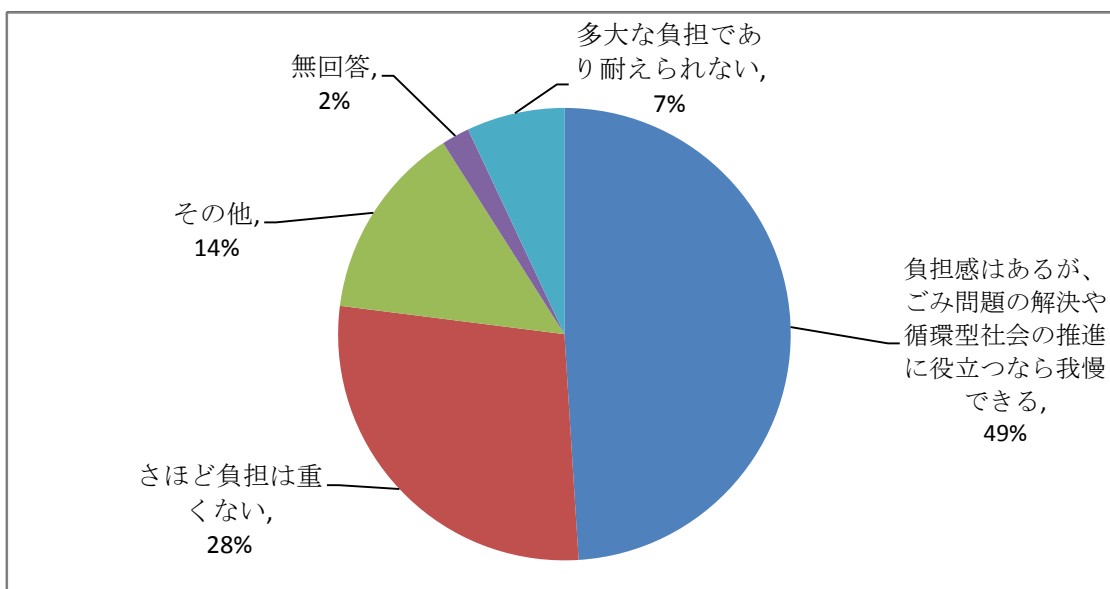


図3.8 モニター調査時の負担額 (1L=2円換算)

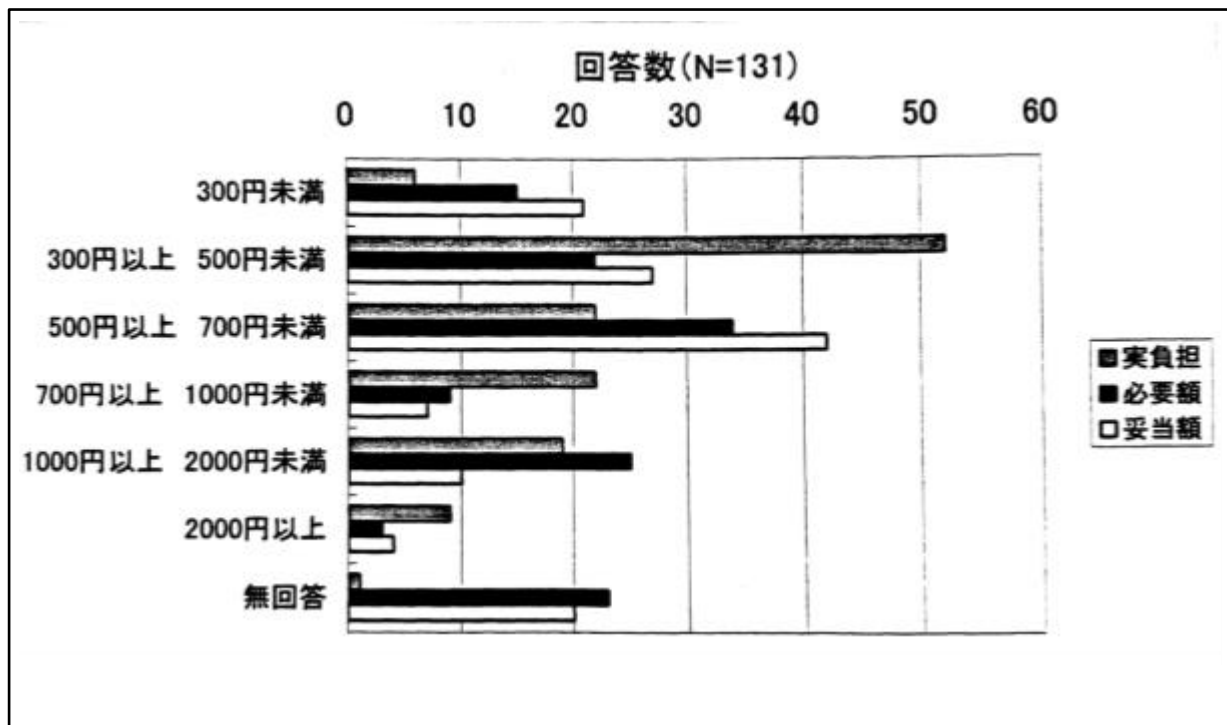


補足) 多大な負担の回答者世帯人数内訳

- ・単身世帯：3世帯、2世帯：1世帯、4人以上世帯：6世帯

図3.9 モニター調査時の負担感 (1L=2円換算)

- モニター調査時の負担額と、効果のある負担額（必要額）、妥当な負担額（妥当額）の回答を比較すると、実際の負担額よりも必要額や妥当額のほうが高くなっている。
- 平均値で見ると必要額は月660円であり、妥当額が月540円である。しかし、両者とも中央値を見ると500円となっており、有料化の負担額については月500円を目安と見ていることがうかがえる。
- 40L一袋の料金の妥当額について回収時に聞き取り調査した結果、50円の回答が最も多く、次いで40円、55円、80円の順であった。



- ・ 実負担額 平均値： 456円、中央値： 385円
- ・ 必要額 平均値： 659円、中央値： 500円
- ・ 妥当額 平均値： 539円、中央値： 500円

図 3.10 有料化の負担額（モニターによる実負担額、必要額、妥当額の比較）

表 3.3 世帯属性別の有料化の負担額回答平均値

	単身世帯			二人世帯		複数世帯				総計
	単身学生	単身高齢	単身一般	二人高齢	二人一般	複数子育	複数子供高齢	複数高齢	複数一般	
家庭ごみ有料化に伴う、月額負担額 平均値										
対象世帯数	17	3	15	6	24	41	2	4	18	130
円/月	356.5	290.0	206.6	413.3	309.4	682.4	710.0	695.0	370.0	452.1
ごみ抑制（1割程度減）のために必要な金額 平均値										
対象世帯数	16	2	12	6	17	33	3	3	16	108
円/月	846.9	450.0	525.0	566.7	547.1	695.5	508.3	416.7	763.8	661.1
家庭ごみ有料化に伴う、月額妥当金額 平均値										
対象世帯数	15	3	12	6	16	36	3	4	17	112
円/月	633.3	633.3	420.8	466.7	421.9	490.3	366.7	700.0	811.8	547.8

- モニター調査の回収時に有料化の賛否について聞き取り調査を行った。口頭での意見も一部賛否と判断し集計を行った。
- 負担感から見た賛否では賛成が9割程度となるが、有料化制度に対する賛否を聞くと賛成が約6割、反対が2割、条件付賛成が2割となる。条件付を合わせると有料化に肯定的な回答は約8割である。

表 3.2 アンケート回答と回収時の賛否調査の関係

		回収時調査				総計	割合
		賛成	反対	条件付賛成	未回答		
アンケート調査	負担大(反対)	1	4	1	4	10	8.6%
	仕方が無い	30	7	10	23	70	60.3%
	負担小	16	1	5	14	36	31.0%
	その他	2	2		6	10	
	未回答		3		1	4	
	総計	49	17	16	48	130	
	割合	59.8%	20.7%	19.5%			

4) その他の施策について

- その他の施策・対策についてはメーカーや小売店に対する対策を求めており、これに資源ごみ促進策や埋立量削減対策が続いている。また、有料化の効果の公表についても要望が多い。

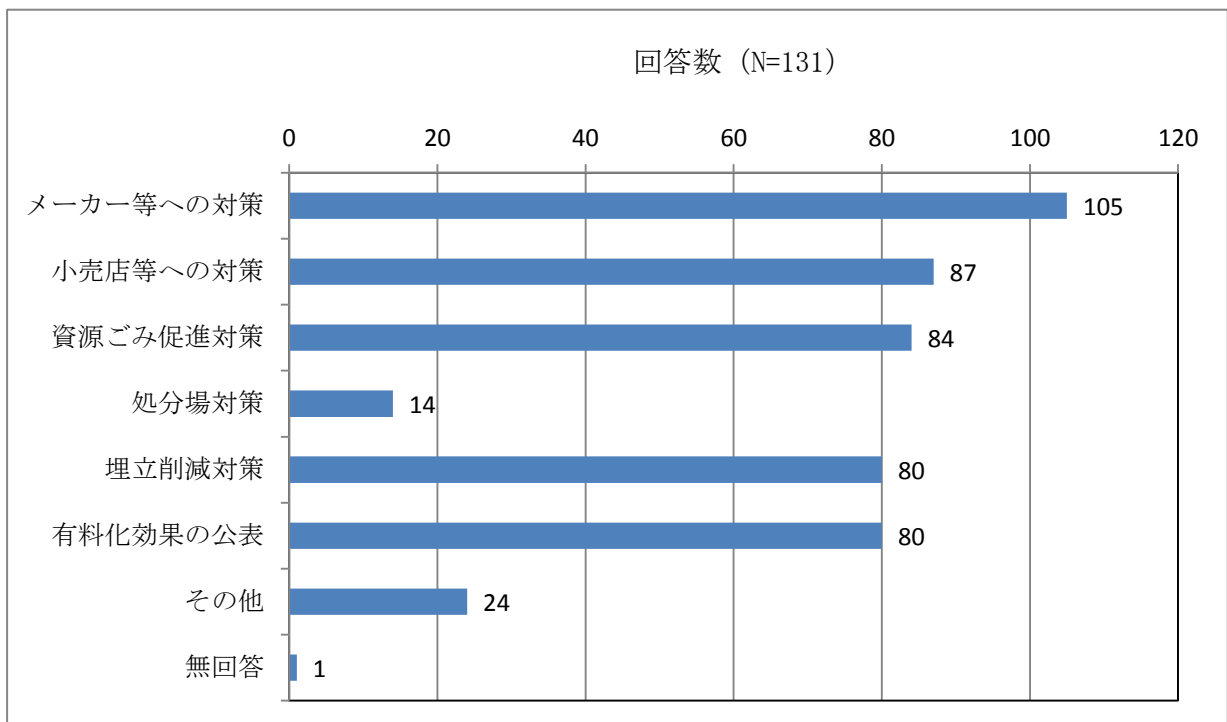


図3.11 他のごみ施策について

5) 自由回答

◎特徴的なもの

- 今まで分別は意識していたが、ごみ量は意識していなかった。今回のモニターがごみ量を意識するきっかけとなった。
- 市の想談会に失望した。
- 日野市の指定袋、分別表（カレンダー）が良い。
- 雨の日の資源ごみ出し（紙ごみなど）の対策はどうすればよいか。
- 減量化などの目標値を策定すべき。
- 多摩地域全体で同一体制（料金など）とすべき。
- 可燃・不燃の袋は別の色が良い。
- シュレッダー処理した紙は資源ごみにならないか。
- 収集時間の明確化（タイムスケジュールを知りたい）。
- なぜ調査を外注したか。

◎多かったもの

- ごみ別では、生ごみ対策、落葉対策、おむつ対策、ペット用品など。
- 今までも分別に努力してきた。
- 分別方法がわかりにくい。特にどの程度洗浄が必要かというガイドラインなど。
- 集合住宅の問題。

以上

「家庭ごみに関するモニター調査」の実施要領

この度は、武蔵野市が実施します、「家庭ごみに関するモニター調査」にご協力いただきまして誠にありがとうございます。このモニター調査を実施するにあたっては、以下の実施要領をご覧の上、実施いただきますようお願い申し上げます。

■ 「家庭ごみに関するモニター調査」について

- ① このモニター調査は、皆様のご家庭でご利用いただく市の指定ごみ袋として、どのような大きさ、どのような形のものが適切であるかを検討するとともに、家庭ごみ有料化に向けた検討のため、市民のみなさまから具体的なお意見を頂くことを目的にしています。
- ② 日常、ご家庭で通常使うことを想定してモニター調査にご協力お願いいたします。
- ③ モニターの期間は、11月10日（月）～12月5日（金）です。
- ④ ごみ袋を使用するにあたっては、できる限り「ごみ袋の選択・利用方法」に従ってごみ袋をご利用ください。
- ⑤ モニター調査の流れは下図のとおりです。

(1) モニター用ごみ袋・調査票等の配布

モニター調査のごみ袋などを配布いたします。ご不在の場合には郵便受などに入れていただき、後日お電話にて調査方法等をご説明させていただきます。



(2) ごみ袋のモニター利用

モニター調査要領に従ってごみ袋の利用をお願い致します。
期間は11/10～12/5です。



(3) 利用実績票の記入

ごみ袋をご利用されるごとに、利用状況を利用実績票にご記入ください。



(4) 回収日程の連絡はがき送付

調査員が利用実績票・アンケート票を回収に伺いますので、ご都合の良い日時をお知らせください。なお、恐縮ですが、連絡はがきは11/21までに送付してください。



(5) アンケート票の記入

モニター期間終了後に、同封のアンケート票にご回答ください。



(6) 利用実績・アンケート票の回収

連絡はがきに基づきアンケート票などを回収に伺います。

裏面も必ずご覧ください

■ごみ袋の選択・利用方法

- ⑥ 本調査の対象は可燃ごみだけですので、可燃ごみ用もしくは不燃ごみ用としてご利用ください。
- ⑦ ごみ袋は、毎回のごみ出しのときになるべく一袋となるようにしてください。
- ⑧ ごみ袋の「大きさ」は、ごみ出しのときにごみ袋が一杯になるような大きさのものを選んでご利用ください。
- ⑨ どうしても一袋で入りきらない場合には、袋の使用数が最小となり、どの袋も一杯となるように袋の大きさを選んでご使用ください。
- ⑩ 袋の種類は、第1週目にはレジ袋、第2週目には平袋、第3週目にはレジ袋（ロール巻型）をご使用ください。その上で一番使い勝手の良かった種類の袋を第4週目にご使用ください。
- ⑪ ⑦、⑧の条件に合う大きさの袋を使い切ってしまった場合には、同じ種類の異なる大きさの袋を使用してください。

■利用実績調査票への記入について

- ⑫ ご利用頂いたモニター用ごみ袋の利用状況を「利用実績記入票」（緑色）に記入ください。
- ⑬ 具体的な記入方法については、利用実績記入票の記入要領の説明に従ってください。
- ⑭ 原則的に、ごみ回収に出した時点で記入下さい。ただし、忘れない程度にまとめて記入いただいても結構です。

●アンケート票の記入と回収について

- ⑮ モニター調査が終了した時点で「アンケート票」（白色）への記入をお願いいたします。
- ⑯ アンケート票の記入方法についてはアンケート票の記入要領をご覧ください。
- ⑰ アンケート票は、担当調査員が回収に伺います。回収希望日程を「アンケート回収日程連絡はがき」に記入の上、11月21日（金）までに投函ください。
- ⑱ ご連絡いただきました回収日の中からアンケート票の回収にお伺いさせていただきます。事前に回収予定日の連絡が必要な方は「連絡はがき」に連絡先をご記入ください。
- ⑲ アンケート回収時に、モニター調査に関しての感想を簡単にお伺いいたしますので、ご協力をお願いいたします。

ご協力よろしくお願ひ申しあげます

※ 本モニター調査は、武蔵野市が（株）富士総合研究所に委託しており、調査票の配布・回収には富士総合研究所の調査員が伺います。

※モニター調査に関して、ご質問などございましたら下記までお問い合わせください。

■武蔵野市 環境生活部 ごみ総合対策課 （担当）田川 TEL：0422-60-1802 住所：〒180-8777 東京都武蔵野市緑町2-2-28 FAX：0422-51-9950
■株式会社 富士総合研究所 （担当）持続型社会研究室 玉井、藤井 TEL：03-5281-5284 地球環境研究室 齊藤 TEL：03-5281-5287 住所：〒101-8443 東京都千代田区神田錦町2-3 FAX：03-5281-5466

モニター期間終了時に記入ください

モニター番号

「家庭ごみに関するモニター調査」に関するアンケート

1. ごみ袋のモニター利用全般について

(1) これまでのごみの捨て方

これまで、可燃ごみ・不燃ごみはどのように捨てていましたか。

(ごみ量全部に対するおおよその割合をご記入ください。)

- ・市販のごみ袋 ()%程度 → 色 ()
- ・スーパーなどのレジ袋 ()%程度
- ・ポリバケツ等の容器 ()%程度
- ・その他 ()%程度 → 種類 ()

(2) モニター用袋の使用感

今回のモニター調査で使ったごみ袋の全体的な使用感はどのようなものでしたか。

(1つだけ丸をつけてください。)

- ・これらのモニター袋であれば、今後使い続けていくことに問題が無い
- ・今後使っていくには、袋の改善が必要である(※具体的な内容は後ほどお伺いします)
- ・指定のごみ袋を使うことには抵抗がある
- ・その他 ()

(3) モニター調査を通じたごみ出し意識

今回のモニター調査を終えてみて、ごみを出す際の意識に変化はあったでしょうか。

(いくつでも丸をつけてください。)

- ・決められたごみ袋を使うことで、ごみを減らしたり分別したりする意識が高まった
- ・一日のごみ量がどのくらいか意識するようになった
- ・一袋になるべく多くのごみが入るように、ごみの詰め方を工夫するようになった
- ・買物などをするときにごみとなるかどうか意識した
- ・意識は高まったが、効果はそれほどないと思う
- ・前と変わらない
- ・その他 ()

(4) モニター調査を通じたごみ出し行動

今回のモニター調査を終えてみて、ごみ出しのための行動として実際に行ったことはどれでしょうか。(いくつでも丸をつけてください。)

- ・ごみの分別を徹底するように行動した
- ・捨てるごみ量を減らすように努力した
- ・ごみとらないように買物などのときに気をつけて行動した
- ・モニター袋の大きさに合わせて捨てるごみ量を調整した
- ・その他 ()

2. 袋の大きさについて

今回お願いしたモニター調査では、袋の大きさを4種類としましたが、様々な状況で使う場合にどの大きさが適切となるでしょうか。それぞれの場合に対してご回答ください。（それぞれ、1つだけ丸をつけてください。種類の数には数字をご記入ください。）

	可燃ごみ用	不燃ごみ用
①最もよく使う袋としては、どの大きさが適切でしょうか	<ul style="list-style-type: none"> •40L 20L 10L 5L (丸をつけてください) •他に適したサイズがある → () L 	<ul style="list-style-type: none"> •40L 20L 10L 5L (丸をつけてください) •他に適したサイズがある → () L
②最も大きい袋としては、どの大きさが適切でしょうか	<ul style="list-style-type: none"> •40L 20L 10L 5L (丸をつけてください) •他に適したサイズがある → () L 	<ul style="list-style-type: none"> •40L 20L 10L 5L (丸をつけてください) •他に適したサイズがある → () L
③最も小さい袋としては、どの大きさが適切でしょうか	<ul style="list-style-type: none"> •40L 20L 10L 5L (丸をつけてください) •他に適したサイズがある → () L 	<ul style="list-style-type: none"> •40L 20L 10L 5L (丸をつけてください) •他に適したサイズがある → () L
④袋の大きさの種類としては何種類が適切だとお考えでしょうか	•() 種類	•() 種類

3. 袋の種類について

今回お願いしたモニター調査では、袋の種類を3種類としましたが、様々な状況で使う場合にどの種類が適切となるでしょうか。それぞれの場合に対してご回答ください。（それぞれ、1つだけ丸をつけてください。種類の数には数字をご記入ください。）

	可燃ごみ用	不燃ごみ用
①最もよく使う袋としては、どの種類が適切でしょうか	<ul style="list-style-type: none"> •レジ袋 •平袋 •レジ袋<ロール巻> 	<ul style="list-style-type: none"> •レジ袋 •平袋 •レジ袋<ロール巻>
②最も大きい袋としては、どの種類が適切でしょうか	<ul style="list-style-type: none"> •レジ袋 •平袋 •レジ袋<ロール巻> 	<ul style="list-style-type: none"> •レジ袋 •平袋 •レジ袋<ロール巻>
③最も小さい袋としては、どの種類が適切でしょうか	<ul style="list-style-type: none"> •レジ袋 •平袋 •レジ袋<ロール巻> 	<ul style="list-style-type: none"> •レジ袋 •平袋 •レジ袋<ロール巻>
④袋の種類は何種類が適切だとお考えでしょうか	•() 種類	•() 種類

4. 袋の使用感について

モニター調査で使用したごみ袋の使用感について、ご回答ください。

(1) 袋の強度（丈夫さ）

袋を使って頂いた中で、袋の強度についてどのようにお感じになったでしょうか。

(1つだけ丸をつけてください。)

- ・特に強度面での問題は無かった
- ・もう少し袋の強度があると良い
- ・袋が弱く、破けるなどモニター期間中に問題があった
- ・その他 ()

※何らかの形で袋の強度に問題があるとお感じの方は下の①②③にご回答ください。

①どのような時に強度に不安をお感じになりますか。(いくつでも丸をつけてください。)

- ・可燃物を入れたとき
- ・不燃物を入れたとき
- ・袋の口をしぼる時
- ・ステーション（集積所）まで持っていくとき
- ・家庭でごみを入れて保管しているとき
- ・その他 ()

②特に強度が不安な袋の大きさはあるでしょうか。(いくつでも丸をつけてください。)

- ・40L
- ・20L
- ・10L
- ・5L
- ・すべての大きさ

③特に強度が不安な袋の種類はあるでしょうか。(いくつでも丸をつけてください。)

- ・レジ袋
- ・平袋
- ・レジ袋<ロール巻>
- ・すべての種類

(2) 袋の使い勝手

袋の使い勝手として気になった点をご回答ください。

(いくつでも丸をつけてください。)

- ・特に使い勝手の面での問題は無かった
- ・袋の口のしぼり方に関して使い勝手が良くない
- ・袋を1枚1枚取り出す際の使い勝手が良くない
- ・袋のストック（まとめた保管）に関して使い勝手が良くない
- ・袋の区別（大きさ）が分かりにくい
- ・その他 ()

(4) 有料化を受けてのごみ出し行動

上の(3)で計算していただいた月額がかかる場合、あなたのお宅ではどのようなごみ出しを心がけるでしょうか。(いくつでも丸をつけてください。)

- ・家計への負担をなるべく減らすよう、資源の分別を心がける
- ・家計への負担をなるべく減らすよう、ごみ減量を心がける
- ・努力してもそれほど負担額は変わらないので、行動はこれまでと同じ
- ・その他 ()

(5) ごみの抑制のために必要な金額

武蔵野市の家庭が、平均して1割程度のごみを減らすためには、幾らくらいの月額となれば成功するとお考えでしょうか。

1世帯あたり月額 () 円 程度

(6) 各家庭にとって妥当な金額

それでは、家計の負担と、理想のごみ出し・リサイクルのあり方とを考え合わせれば、武蔵野市の家庭1世帯にとって、幾らくらいの月額が妥当だとお思いでしょうか。

1世帯あたり月額 () 円 程度

(7) 他のごみ政策との兼ね合いについて

ごみの有料化とあわせて、武蔵野市が検討すべきとお考えのごみ政策はあるでしょうか。(いくつでも丸をつけてください。)

- ・ごみとなる製品の製造を抑制する政策(メーカーが製品容器を簡単なものにするなど)
- ・ごみとなる包装を抑制する政策(買い物時にレジ袋を出さないなど)
- ・缶・びん・古紙などをごみでなく資源回収に出しやすくする政策
- ・埋め立てる場所を確保する政策(新しい最終処分場の建設など)
- ・同じごみ量でも埋め立てることになる量を減らす政策(生ごみの分別化・リサイクルなど)
- ・有料化の導入による効果の公表(削減できたコスト、ごみの削減量など)
- ・その他 ()

7. あなたのお宅の世帯構成

あなたのお宅の世帯人数を記入ください。また、ご家族の方の年齢層、職業等について下記の選択肢の中から該当する番号に丸をつけてください。ご家族の方については、どの順番で記入いただいても結構です。

世帯人数	人														
	年齢層								職業						
世帯主	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7
ご家族①	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7
ご家族②	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7
ご家族③	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7
ご家族④	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7
ご家族⑤	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7
ご家族⑥	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7

◎年齢層の選択肢

1. 0～1才 2. 2～5才 3. 6～12才 4. 13～18才 5. 19～24才 6. 25～60才
7. 61～69才 8. 70才以上

◎職業の選択肢

1. 会社員・公務員・団体職員 2. 自営業 3. 専業主婦 4. パート・アルバイト
5. 学生 6. 無職 7. その他

8. ごみ処理に対するご意見

今回のモニター調査も合わせて、ごみ収集、ごみ処理に関するご意見がありましたら、下記にご自由に記入ください。

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

弊社は、個人情報の保護をお約束する「プライバシーマーク」の認定を受けております。

〔(財)日本情報処理開発協会／認定番号B820046(02)〕



【利用実績記入票】

モニター番号

【記入上の注意】注1) 袋の詰り具体は「5. 一杯に押込む程度」「4. 普通に袋一杯」「3. 3分の2程度」「2. 半分程度」「1. 3分の1以下」を目安に記入ください。
注2) 二日に2枚以上使用した場合には、自由記載欄に袋の大きさと枚数を記入してください。

記入方法	該当に○		該当に○		該当に○(第4週目のみ)		5段階の中から該当に○					自由記載欄	
	曜日	ごみ種	使用サイズ	使用タイプ	袋の具合								
第1週目	11月 日	可燃 不燃	40L 20L 10L 5L	レジ袋								5. (目一杯) 4. (一杯) 3. (3分の2) 2. (半分) 1. (3分の1)	
	11月 日	可燃 不燃	40L 20L 10L 5L	レジ袋								5. (目一杯) 4. (一杯) 3. (3分の2) 2. (半分) 1. (3分の1)	
	11月 日	可燃 不燃	40L 20L 10L 5L	レジ袋								5. (目一杯) 4. (一杯) 3. (3分の2) 2. (半分) 1. (3分の1)	
	11月 日	可燃 不燃	40L 20L 10L 5L	平袋								5. (目一杯) 4. (一杯) 3. (3分の2) 2. (半分) 1. (3分の1)	
	11月 日	可燃 不燃	40L 20L 10L 5L	平袋								5. (目一杯) 4. (一杯) 3. (3分の2) 2. (半分) 1. (3分の1)	
	11月 日	可燃 不燃	40L 20L 10L 5L	平袋								5. (目一杯) 4. (一杯) 3. (3分の2) 2. (半分) 1. (3分の1)	
	11月 日	可燃 不燃	40L 20L 10L 5L	レジ袋(ロール巻)								5. (目一杯) 4. (一杯) 3. (3分の2) 2. (半分) 1. (3分の1)	
	11月 日	可燃 不燃	40L 20L 10L 5L	レジ袋(ロール巻)								5. (目一杯) 4. (一杯) 3. (3分の2) 2. (半分) 1. (3分の1)	
	11月 日	可燃 不燃	40L 20L 10L 5L	レジ袋(ロール巻)								5. (目一杯) 4. (一杯) 3. (3分の2) 2. (半分) 1. (3分の1)	
	12月 日	可燃 不燃	40L 20L 10L 5L	レジ袋 平袋								5. (目一杯) 4. (一杯) 3. (3分の2) 2. (半分) 1. (3分の1)	
	12月 日	可燃 不燃	40L 20L 10L 5L	レジ袋 平袋								5. (目一杯) 4. (一杯) 3. (3分の2) 2. (半分) 1. (3分の1)	
	12月 日	可燃 不燃	40L 20L 10L 5L	レジ袋 平袋								5. (目一杯) 4. (一杯) 3. (3分の2) 2. (半分) 1. (3分の1)	
コメント	(例) ・袋がすぐ破れる ・袋のサイズが大きすぎる (小さすぎる) ・ごみを入れにくい ・ごみを入れにくい ・袋の色について												

＜ごみに関する市民意識調査中間報告＞

1. 1 次調査（グループインタビュー）

- (1) 現状のごみ出し行動（ステーション方式）について
戸建住宅居住者では問題は発生していないが、集合住宅者からは「個人のごみに対する責任感が希薄」、「外部からのポイ捨て」などへの対策を講じてほしいという意見が多く見られた。
- (2) 有料化への賛否
 - ・賛成が約6割、条件付賛成が約1割、反対が約3割であり、おおむね賛同が得られていると考えられる。
 - ・多人数世帯に反対が多い。理由としては、家計への負担増加に見合うごみ減量効果を懸念しており、製造・販売側や、マナーが悪い者への適切な対応を求める声が多く見られた。
- (3) 有料化の料金水準
 - ・1人あたり月250円程度の負担であれば、我慢できる範囲であると考えている。
 - ・料金水準は、多人数世帯を基準にしてほしいという意見が多く見られた。
- (4) 戸別収集について
 - ・導入について反対意見は出ていない。「責任感が強まる」「分別が徹底される」「ごみ出しの労力が減る」等の賛同意見が得られている。
 - ・戸建住宅居住者から、「現状のステーション方式がうまくいっているところは、そのままステーション方式を残してもよいのでは」という意見も出された。
 - ・集合住宅に対して効果があるのかどうか、疑問を持つ意見も出された。

2. 本調査（アンケート調査）

（1）新たな施策の認知度

市の施策（市報、これしか出せないのごみ袋、戸別収集、家庭ごみの有料化の検討）に関する認知度は約60%であった。

（2）有料化の導入について

- ・有料化導入のメリットとしては、「ごみに対する責任が強まる」が65%、「負担感によりごみが減る」が50%で、導入後は「ごみの減量」「資源の分別」「ごみになるものを買わない」という行動を心がけると回答した人がそれぞれ 50%以上存在していた。
- ・デメリットとしては、不法投棄を懸念している人が70～80%であった。

（3）有料化の課金方法・料金水準

- ・有料化の方法としては、「袋制」が60%以上で最も支持されている。（シール制は15%程度）
- ・料金水準としては、世帯あたり月500円（30%）と1000円（20%）に回答が集中した。
- ・一人あたり月250円程度の負担であれば、「負担は重くない」もしくは「負担感はあるが我慢できる」という意見が全体の75%で「多大な負担である」と回答した人は15%程度であり、単身世帯・複数世帯など属性による差はみられなかった。

（4）有料化の減免対象について

- ・減免対象としては「落ち葉」が約55%と一番多く、次いで「乳幼児以外の紙おむつ等」が50%、「乳幼児のおむつ等」が35%という結果であった。

（5）戸別収集について

- ・戸別収集のメリットとしては、「ルールを守るようになる」が約50%と最も多く、次いで「ステーショントラブルの減少」「意識が高まりごみが減る」がそれぞれ40%であった。デメリットとしては、ごみの「ごみの長時間放置」が約60%、「犯罪に対する心配」が約45%と多かった。
- ・戸別収集と併せて導入する対策としては、約60%の人が「市の作業と一目でわかる対策」を望んでいる。

市	人口	世帯数	有料化実施年月	収集方法	手数料 (指定収集袋 1 枚あたりの価格)				有料化の方法と対象
					5 ^{リットル}	10 ^{リットル}	20 ^{リットル}	40 ^{リットル}	
青梅市	140,434	26,023	平成10年10月	ダストボックス →個別収集	—	12円	24円	48円	方法：指定袋で1枚から有料 対象：可燃ごみ、不燃ごみ
日野市	170,332	73,426	平成12年10月	ダストボックス →個別収集	10円	20円	40円	80円	方法：指定袋で1枚から有料 対象：可燃ごみ、不燃ごみ
清瀬市	70,319	29,584	平成13年6月	ステーション	—	10円	20円	40円	方法：指定袋で1枚から有料 対象：可燃ごみ、不燃ごみ
昭島市	110,858	47,371	平成14年4月	ステーション	7円	15円	30円	60円	方法：指定袋で1枚から有料 対象：可燃ごみ、不燃ごみ、プラスチック
福生市	61,747	27,871	平成14年4月	戸別収集	7円	15円	30円	60円	方法：指定袋で1枚から有料 対象：可燃ごみ、不燃ごみ
東村山市	145,226	62,098	平成14年10月	戸別収集	9円	18円	36円	72円	方法：指定袋で1枚から有料 対象：可燃ごみ、不燃ごみ
羽村市	57,068	23,402	平成14年10月	戸別収集	7円	15円	30円	60円	方法：指定袋で1枚から有料 対象：可燃ごみ、不燃ごみ

*人口、世帯数は平成16年2月1日現在

*○印が減免実施

自治体名 有料化開始年月	剪定枝・ 草	ボランティア イア袋	おむつ袋		対象者（世帯）による減免													
			乳幼児	高齢者	生活保護 受給世帯	児童扶養 手当受給 世帯	特別児童 扶養手当 受給世帯	児童育成 手当受給 世帯	(純)母子 福祉年金 受給世帯	老齢福祉 年金受給 者	遺族年金 受給者	高齢者 (60歳以 上のみの 世帯)	罹災にあ った者	その他市 長が認め た者				
青梅市 H10. 10. 1～		○			○	○	○	○	○				○				○	
日野市 H10. 10. 1～	○	○			○	○	○	○	○				○				○	
清瀬市 H13. 6. 1～	○	○			○	○	○	○	○									
昭島市 H14. 4. 1～	○	○	○	○	○	○	○	○	○							○		
福生市 H14. 4. 1～	○	○	○	○	○	○	○	○	○						○			
東村山市 H14. 10. 1～	○	○		○	○	○	○	○	○								○	
羽村市 H14. 10. 1～	○	○	○	○	○	○	○	○	○								○	

ごみ分別の一部変更について

1. 変更の概要

現在「燃やせないごみ」となっている靴類、資源にならないプラスチック類など、破砕選別する必要のないものを「燃やせるごみ」に変更する。

「燃やせるごみ」を「燃やすごみ」、「燃やせないごみ」を「燃やさないごみ」に名称を変更する。

2. 実施時期

平成16年8月の収集から

3. 周知

市報7月15日号、地区別分別チラシを全戸に配布（7月中旬から下旬）
ホームページ掲載、むさしのFMなど

家庭ごみ有料化実施市の状況

市	人口	世帯数	有料化実施年月	収集方法	手数料（指定収集袋1枚あたりの価格）				有料化の方法と対象
					5 ^{リットル}	10 ^{リットル}	20 ^{リットル}	40 ^{リットル}	
武蔵野市	131,659	67,153	平成16年 10月（予定）	戸別収集	10円	20円	40円	80円	方法：指定袋で1枚から有料 対象：可燃ごみ、不燃ごみ
青梅市	140,743	56,551	平成10年10月	ダストボックス →個別収集	—	12円	24円	48円	方法：指定袋で1枚から有料 対象：可燃ごみ、不燃ごみ
日野市	171,033	74,028	平成12年10月	ダストボックス →個別収集	10円	20円	40円	80円	方法：指定袋で1枚から有料 対象：可燃ごみ、不燃ごみ
清瀬市	72,015	30,359	平成13年6月	ステーション	—	10円	20円	40円	方法：指定袋で1枚から有料 対象：可燃ごみ、不燃ごみ
昭島市	110,896	47,633	平成14年4月	ステーション	7円	15円	30円	60円	方法：指定袋で1枚から有料 対象：可燃ごみ、不燃ごみ、プラスチック
福生市	61,947	28,207	平成14年4月	戸別収集	7円	15円	30円	60円	方法：指定袋で1枚から有料 対象：可燃ごみ、不燃ごみ
東村山市	145,864	62,912	平成14年10月	戸別収集 *資源はステーション	9円	18円	36円	72円	方法：指定袋で1枚から有料 対象：可燃ごみ、不燃ごみ
羽村市	57,196	23,599	平成14年10月	戸別収集	7円	15円	30円	60円	方法：指定袋で1枚から有料 対象：可燃ごみ、不燃ごみ
あきる野市	80,316	30,353	平成16年4月	戸別収集	7円	15円	30円	可燃 40 ^{リットル} 60円 不燃 30 ^{リットル} 45円	方法：指定袋で1枚から有料 対象：可燃ごみ、不燃ごみ
調布市	210,239	101,706	平成16年4月	戸別収集	8円	15L 26円	30L 53円	45L 80円	方法：指定袋で1枚から有料 対象：可燃ごみ、不燃ごみ
八王子市	532,776	224,410	平成16年 10月（予定）	戸別収集 *資源はステーション	9円	18円	37円	75円	方法：指定袋で1枚から有料 対象：可燃ごみ、不燃ごみ
稲城市	75,061	30,680	平成16年 10月（予定）	戸別収集 *資源はステーション	8円	15円	30円	60円	方法：指定袋で1枚から有料 対象：可燃ごみ、不燃ごみ

*人口、世帯数は平成16年6月1日現在

家庭ごみ有料化実施後ごみ量推移

	ごみ種 ごみ量 前年度比 (%)	平成9年度			平成10年度			平成11年度			平成12年度			平成13年度			平成14年度		
		可燃	不燃	資源	可燃	不燃	資源	可燃	不燃	資源	可燃	不燃	資源	可燃	不燃	資源	可燃	不燃	資源
武蔵野市 平成16年 10月実施 (予定)		39,554	5,064	7,415	40,575	4,667	8,357	40,363	5,220	8,126	39,081	4,830	9,101	40,050	4,716	9,525	39,244	4,662	9,137
					2.6	△7.8	12.7	△0.5	11.8	△2.8	△3.2	△7.5	12.0	2.5	△2.4	4.7	△2.0	△1.2	△4.1
青梅市 平成10年 10月実施		36,277	6,388	1,045	34,143	5,486	3,272	28,480	3,561	6,499	30,213	3,695	6,956	29,459	5,916	7,579	30,384	6,080	7,610
					△5.9	△14.1	313.0	△16.6	△35.1	98.6	6.1	3.8	7.0		60.1	9.0	3.1	2.8	0.4
日野市 平成12年 10月実施		47,000	12,097	2,239	46,987	12,048	3,183	45,714	11,641	3,810	39,330	10,086	8,286	30,060	5,622	12,605	30,305	5,841	12,818
					0.0	△0.4	42.2	△2.7	△3.4	19.7	△14.0	△13.4	217.5	△23.6	△44.3	52.1	0.8	3.9	1.7
清瀬市 平成13年 6月実施		14,100	1,820	3,012	13,934	2,068	3,654	14,186	2,135	3,505	14,511	2,288	3,691	13,669	2,382	3,952	13,573	2,348	3,743
					△1.2	13.6	21.3	1.8	3.2	△4.1	2.3	7.2	5.3	△5.8	4.1	7.1	△0.7	△1.4	△5.3
昭島市 平成14年 4月実施		31,343	4,111	1,585	31,592	4,247	1,870	30,839	4,064	2,543	28,107	3,772	5,525	31,077	4,231	5,960	28,051	3,373	6,232
					0.8	3.3	18.0	△4.2	△4.3	36.0	△8.9	△7.2	217.3	10.6	12.2	7.9	△9.7	△20.3	4.6
福生市 平成14年 4月実施		15,942	2,488	2,528	15,752	2,597	3,024	14,464	2,171	3,673	14,148	1,873	4,019	14,482	1,995	4,124	12,970	1,635	4,610
					△1.2	4.4	19.6	△8.2	△16.4	21.5	0.2	△13.7	9.4	2.4	6.5	2.6	△10.4	△18.0	11.8
東村山市 平成14年 10月実施		33,532	4,285	5,542	32,010	4,573	6,433	32,315	4,969	6,773	32,383	4,980	7,010	32,071	4,780	7,056	30,426	4,897	7,769
					△4.5	6.7	16.1	1.0	8.7	5.3	0.2	0.2	3.5	△1.0	△4.0	0.7	△5.1	2.4	10.1
羽村市 平成14年 10月実施		15,475	851	2,586	15,722	897	2,829	16,160	990	3,160	14,326	1,760	4,273	13,785	1,662	4,970	13,296	1,539	5,288
					1.6	5.4	9.4	2.8	10.4	11.7	△11.3	77.8	35.2	△3.8	△5.6	16.3	△3.5	△7.4	6.4

資料：「多摩地域ごみ実態調査平成14年度版」 東京都市町村自治調査会

「家庭ごみの有料化」実施状況報告

平成16年10月から実施された「家庭ごみの有料化」に伴う、指定ごみ処理袋の使用状況及びごみの排出状況を下記のとおり報告いたします。

記

1. 指定ごみ処理袋の使用状況

(1) 戸建て住宅

- ・指定ごみ処理袋での排出がほぼ全世帯で実行されている。
- ・資源ごみ排出に指定ごみ処理袋を使用している世帯が散見されるため、収集時に無料であることを知らせるチラシをポスティングしている。

(2) 集合住宅

- ・有料化が実施される前から、分別など排出状況の悪い集合住宅250棟（4,150世帯）を特別指導対象として事前指導を実施した。有料化実施1ヶ月を経過し、特別指導対象の集合住宅は、家主、管理不動産業者の協力が得られ始め、大幅に状況が改善されたことから、一般指導対象の300棟に重点を移し指導しているところである。

2. ごみ量の推移

(1) 可燃ごみ

(単位：トン)

	16年度	15年度	15年度比増減量	15年度比増減率
9月分収集量	2,073.52	1,988.15	85.37	4.3%
10月分収集量	1,579.18	1,922.43	△343.25	△17.7%

(2) 不燃ごみ

(単位：トン)

	16年度	15年度	15年度比増減量	15年度比増減率
9月分収集量	493.70	366.06	127.64	34.9%
10月分収集量	112.72	423.78	△311.06	△73.4%

(3) ペットボトル、その他プラスチック容器包装類

(単位：トン)

	16年度	15年度	15年度比増減量	15年度比増減率
9月分収集量	140.59	101.47	39.12	38.6%
10月分収集量	151.81	101.73	50.08	49.2%

(4) 古紙類

(単位：トン)

	16年度	15年度	15年度比増減量	15年度比増減率
9月分収集量	577.07	371.51	205.56	55.3%
10月分収集量	658.55	432.40	226.15	52.3%

「家庭ごみの有料化」実施状況報告

平成16年10月から実施された「家庭ごみの有料化」に伴う、ごみの排出状況を下記のとおり報告いたします。

記

＜有料化実施3カ月間（平成16年10月～12月）収集量の前年同時期との比較＞

＜ごみ発生量＞

（単位：トン）

	16年度	15年度	15年度比増減量	15年度比増減率
10月～12月分	12,870.39	13,255.75	△385.36	△2.9%

＜発生量の主な内訳＞

（１）クリーンセンターで中間処理後最終処分場に搬入されるごみ

・可燃ごみ ※許可業者の持込による事業系可燃ごみを除く。

	16年度	15年度	15年度比増減量	15年度比増減率
10月～12月分				
可燃収集量	5,256.82	6,026.35	△769.53	△12.8%
不燃収集量	397.35	1,183.32	△785.97	△66.4%
可不燃収集量 合計	5,654.17	7,209.67	△1,555.50	△21.6%

（２）回収後リサイクルされる資源物

・その他プラスチック容器包装類

	16年度	15年度	15年度比増減量	15年度比増減率
10月～12月分 収集量	393.91	195.17	198.74	101.8%

・古紙類

	16年度	15年度	15年度比増減量	15年度比増減率
10月～12月分 収集量	2,147.95	1,333.09	814.86	61.1%

※ごみ発生量には、この表の他粗大ごみ、有害ごみやその他の資源物が含まれる。

